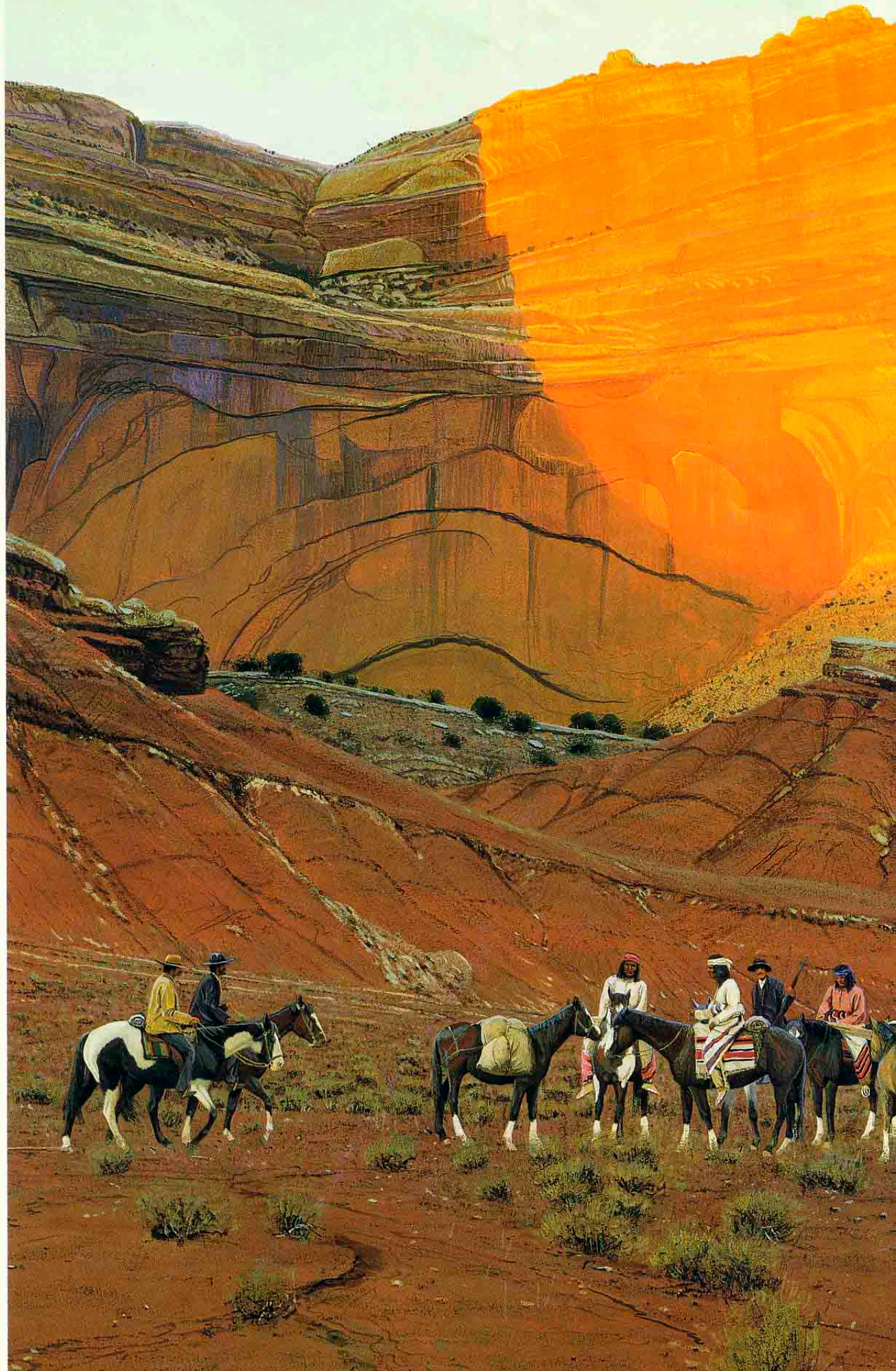


聖徒の道

9
1995



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1995年9月号



表紙——1800年代半ば、ブリガム・ヤングはホビ族とナバホ族の間で伝道を開始。この時期に多くが改宗した。今日、当時の3代目、4代目の子孫の多くが末日聖徒の芸術家として活躍中。作品は世界じゅうから注文がある。(『南西部——アメリカ先住民の血を引く末日聖徒の芸術』p.34参照)

ホビ族のツープ酋長も初期の改宗者。セントジョージ神殿でエンダウメントを受けている。この絵(ジョン・ジャービス画、1982年作)は、ツープ酋長が宣教師ジェイコブ・ハンプリングと、リトル・コロラド・リバーで出会っている場面。

左上——「光栄の三種の段階」レス・ナミンガ作。右上——「かぼちゃの花」ネックレス。ウェイン・セカクワップテワ作。末日聖徒のウェイン・セカクワップテワは独特の技法を完成。鑄て、いぶした銀の層の上に、別の銀の層を重ねる。上の層が透けて下の層が見える。右下——「古代人の声」ルーシー・ループ・マケルビー作。マケルビー姉妹は、インディアン諸部族に伝わる象徴で、モルモン経の歴史を表現した。側面に描かれた岩窟居住人は、「古代人」か昔の予言者である。

左下——「ノアの箱舟」ユージン・ヌランジョー、イザベラ・ヌランジョー作。この黒い陶製の人形の制作には、親、子、孫が協力した。

こどものページ——オーストラリアのテレビタレント、マシュー・クローク。お母さんと一緒に歌のリハーサルをしている。2ページの『オーストラリアのカッスルリーグに住むマシュー・クローク』(写真ていきょう/クローク家族)

一般

大管長会メッセージ——祝福された時代	
大管長ゴードン・B・ヒンクレー	2
みたまの声 第二副管長ジェームズ・E・ファウスト	16
聖典を声に出して読む	
ペリー・ブラット、ジャナ・ブラット	24
チェコスロバキアで受け継がれる伝道精神	
ルース・マッコンバー・ブラット、アン・サウス・ニーンドルフ	26
山上の垂訓を結婚生活に生かす ポール・K・ブラウニング	28
天使とともに ララ・メーヨー・バンガータ	33
南西部——アメリカ先住民の血を引く末日聖徒の芸術	34

青少年

心の奥底から ハーペル・パティカウエン	8
教会の代表者に召されて——エストニアの教会設立に貢献した若者	
バーバラ・ルイス	10
何がおかしいの! カミーユ・ニュージェント	14
汚れたものを遠ざける H・バーク・ピーターソン	42
父の歩みに倣って ジャネット・トーマス	46

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——「汚れもなく」	25

こども

友だちになろう	
オーストラリアのカッスルリーグに住むマシュー・クローク	
リチャード・M・ロムニー	2
名誉の帰還 ロバート・D・ヘイルズ長老	5

歌 信仰

ピアトリス・ゴフ・ジャクソン、マイケル・フィンリンソン・ムーディ	6
おもちゃばこ——せいてんからの物語クイズ	8
分かち合いの時間——わたしは、イエスキリストのさいりんをしんじます	
スーザン・L・ワーナー	10
大将 アルマ・J・イエーツ作	12

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
 十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジョー・J・クリステンセン
 顧問：スペンサー・J・コンディ、ローレン・C・ダン

教科課程管理部責任者
 実務部長：ロナルド・L・ナイトン
 企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
 グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ
 編集主幹：マービン・K・ガードナー
 編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
 編集副主幹：デビッド・ミッチェル
 編集補佐/こどものページ：ティエーン・ウォーカー
 工程管理：メアリー・アン・マーティンデル
 出版補佐：ベス・デーリー

デザインスタッフ
 機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンペン
 デザイナー：シェリー・クック
 制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
 制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ
 購読管理ディレクター：B・レックス・ハリス
 配送部長：クリス・クリステンセン
 マーケティング部長：ジョイス・ハンセン、ケント・H・ソレンセン

聖徒の道 1995年9月号第39巻第9号
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック/クロスロード
 定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
 半年予約1,200円(送料共)
 普通号/大会号200円

Copyright © 1995 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1993年10月 翻訳承認—1993年10月 原題—International Magazines September, 1995. Japanese. 95989300
 ●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部総経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。
 ●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部総経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

母国語のメッセージ

「トゥーフル」(トンガ語版「たいまつ」の意)が発行されていることに感謝しています。「トゥーフル」を通じて、私たちは母国語で教会幹部からの導きと勧告を受けられます。毎月、掲載されるメッセージと記事のおかげで心に平安を感じ、信仰を強め、福音の知識を増し、聖典の大切さを思い起こすことができます。

「トゥーフル」を読み終えると、いつもそのメッセージと勧告を友人と分かち合っています。長い旅行に出かけるときは、たいてい、寂しい気持ちにならないように「トゥーフル」を持って出かけます。

「トゥーフル」の記事は日々の生活に対する指針を与えてくれるので、私と家族にとってすばらしい祝福です。

ニュージーランド、オークランド・ヘンダーソンステーク部ティティランギワード部

サイアトゥーア・イエウーラ・ファアアポイ

福音のメッセージを分かち合う

私は1990年の初めにバプテスマを受けました。教会が真実であるという証^{あかし}を得る助けとなったのが、1990年2月号の「リアホナ」(スペイン語版)に載ったエズラ・タフト・ベンソン大管長の大管長会メッセージ「最も価値あること」でした。ベンソン大管長のメッセージにより、神のすべての子供たちが真理を知るのがどれほど大切なことかわかりました。

今、私は専任宣教師として、真理の証を求める人々に福音を分かち合うに当たって「リアホナ」を用いています。

毎月リアホナを読むたびに、力が増

し加えられることに感謝しています。

ベネズエラ・マラカイボ伝道部
 ガルロス・ルイス・ロンドン長老

生ける予言者の勧告

天父が毎月「リアホナ」(スペイン語版)のような価値ある機関誌を読む機会を与えてくださることに感謝しています。世の誘惑と日々闘っている私にとって、生ける予言者の勧告に心を向けられることは、大きな慰めとなっています。

メキシコシティ、イスタパラバステーク部イスタカルコワード部
 ダニエル・カルバハル・バロン

すばらしい模範

私は1994年12月号の「リアホナ」(スペイン語版)に掲載された、バーノン・L・ヒルの記事「45年分の什^{じゅうご}分の一」に深く感動しました。その記事はルカソバ姉妹について書かれたもので、彼女はチェコスロバキアに住み、長年の間教会とは隔絶された状況にあったにもかかわらず、忠実に什分の一を預金口座に蓄えていました。このすばらしい姉妹が示してくださった信仰、誠実さ、そして従順さは、皆の模範です。

すべての教会員のかたがたに、この機関誌を注意深く読むようお勧めします。ここには教会幹部からの勧告や、霊的な成長を促し、証を強めるうえで役立つ、義にかなった生き方の模範が載っています。

ドミニカ共和国、サンティアゴ南ステーク部ヴィラ・オルガワード部
 アイダ・プチュウ・デ・ムーニョス



祝福された時代

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

私は教会の若人に心から感謝するとともに、彼らに対して楽観的な思いを持っています。また、その気持ちをお伝えしなければならぬと強く感じています。しかし、こう申しあげるからといって、すべての若人について、何も問題がないと考えているわけではありません。問題を抱えた人は多くいます。若人に対して私たちが抱えている大きな期待に、はるかに及ばない生活をしている人も多くいます。

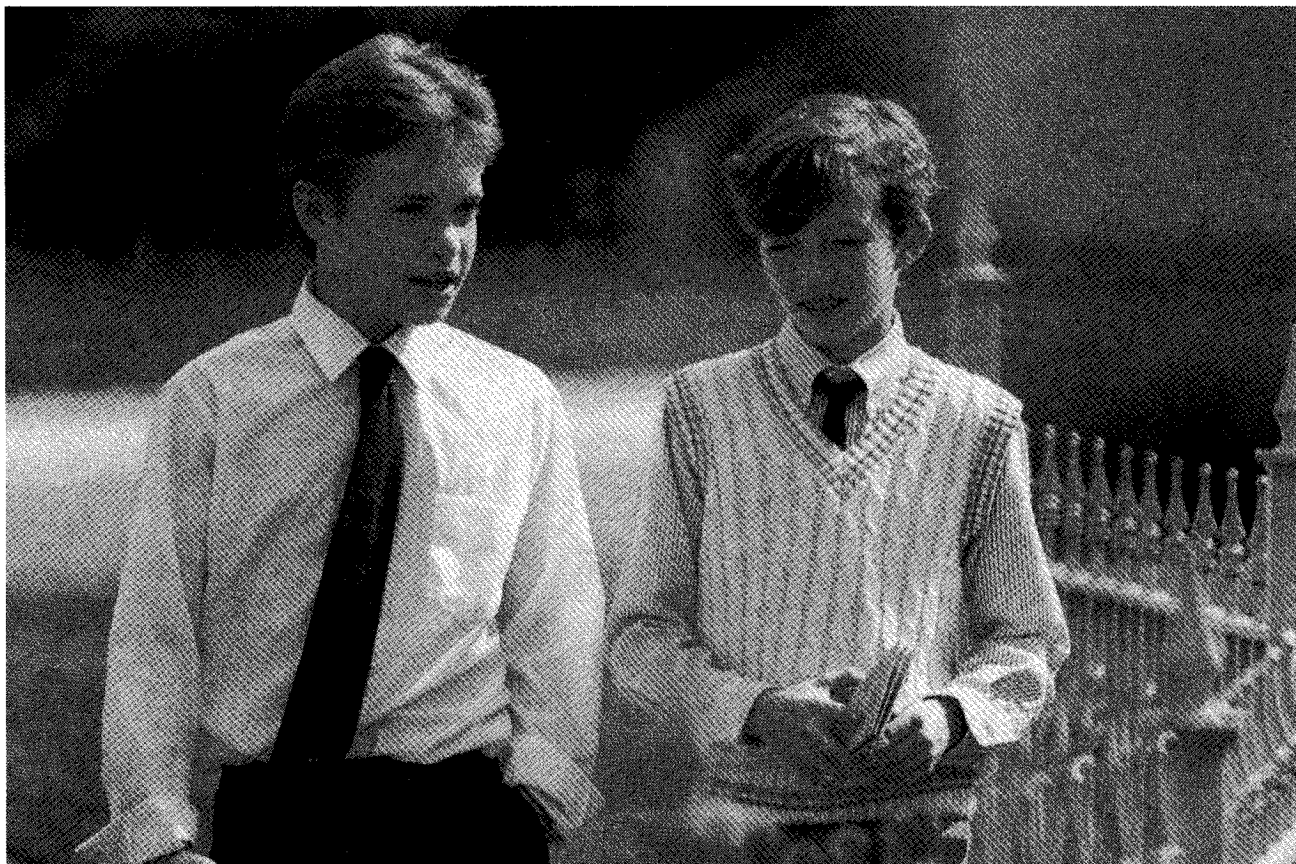
しかし、こうしたことを考慮に入れても、私は若人全体に対して大きな信頼を寄せています。皆さんは、教会の歴史上最も優れた世代です。私は皆さんを称賛すると同時に、大きな愛と尊敬、感謝の念を抱いています。

古代の使徒ペテロは次のように偉大な予言の言葉を残しています。「あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、特異な民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」（欽定訳Ⅰペテロ2：9）

この聖句は、ほかの何よりも皆さんのことを適確に表わしています。そして皆さん



今は、世界史上最も大いなる時代です。そして皆さん若人がこの時代に生を受けていることは祝福なのです。私たちは今日、イエス・キリストの回復された福音を通して、知識と光、真理の偉大な開花の恩恵に浴しています。



PHOTOGRAPH BY JOHN SNYDER

んに高い理想を示し、皆さんの人生を方向づけ、導いてくれます。

少し前のことですが、ある新聞で、教会のことを痛烈に批判した投書を読みました。その中には次のような質問が書かれていました。「モルモンはいつになったら人と違ったことをするのをやめ、アメリカの主流に加わるのだろうか。」

時を同じくして、私のデスクにインディアナ州のダン・コーツ上院議員の演説のコピーが届きました。コーツ氏は、合衆国の若者が抱える問題について行なわれたある調査に言及していました。その報告書には次のような結論が出されていました。

「自殺は、現代の若者の死亡原因の第2位を占めています。……毎年100万人以上の10代の少女が妊娠し、10代の少女を妊娠させた10代の青年の85パーセントは、結局責任を放棄しています。

……現在、人種、宗教面などで少数グループに属する15歳から19歳の若者が死亡する原因のトップは、殺人となっています。

毎年、薬物の乱用により、さらに強い薬物を用いるようになった若者の多くが死亡しています。高校3年生の3分の1が週に1度は飲酒をしています。」

そしてこの報告書は衝撃的な言葉で結ばれています。「……最も根本的な要因は……飲酒、麻薬、暴力、乱交といったひどく自滅型の行為にある。これは行動と信条の危機であり、人格の危機でもある。」（「インプリミス」1991年9月号、p.1）

私はこの報告書を読んで、もしこれがアメリカの若者の主流だとしたら、自分の全力を尽くして、教会の若人にその流れから遠ざかるように説得し、励まさなければならぬと思いました。

私は、すべての国に健全でりっぱな

若い皆さんは、まさに王国の神権者です。ふさわしい生活をすれば、皆さんは恵みを施す天使から慰めや守り、導きを受けられることでしょう。この世の王国に属する人でこれほど偉大な祝福を得られる人はいません。

生活を送っている多くの若人がいることを知っています。しかしだれも、数多くの若人に悪い影響を及ぼす伝染病が全世界に存在することを無視することはできません。これは価値観を見失い、道徳的な標準を捨てたことから来る病です。

ペテロの偉大な言葉に戻って、皆さんへの嘆願とし、チャレンジしたいと思います。「あなたがたは選ばれた種族」です。これは紛れもない真実です。私たちは確かに多くの問題を抱えていますが、今は、世界史上最も大いなる時代です。そして皆さん若人がその一翼を担っています。皆さんがこの時代に生を受けていることは祝福なのです。そしてその実は、それを自分です。そしてそれをふさわしい生活をするかぎり、皆さんに祝福をもたらしてくれます。

私たちは今日、この世の歴史のどの時代よりも多くの快適さと機会、科学や研究の恩恵を受けています。私はなぜこの祝福された時代に生を受けることができたのかわかりませんが、そのことに心から感謝しています。皆さんもそう感じていらっしゃると思います。

そして、こうしたあらゆる知識の開花の頂点を飾るのが、イエス・キリストの全き福音の回復というさらに偉大な祝福です。地上に過去のすべての神権時代のあらゆる原則と権能、祝福が回復されたのです。明確で疑いを差し

挟む余地のない啓示により、永遠の父なる神とその愛子、すなわち世の救い主にして贖い主が実在されるという知識がもたらされました。

バプテスマのヨハネがこの地上を訪れ、アロン神権を授けました。これは、「天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権」(教義と聖約13:1)です。

また、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが、イエスご自身によって授けられた神聖な権能をこの世に回復しました。肉体を受けておられた時、イエスは彼らにこう語られました。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」(マタイ16:19)

また知識と光、真理の偉大な開花の一部として、主イエス・キリストについてのもうひとつの証であるモルモン経が出現しました。モルモン経は神の御子の実在を宣言するものです。

確かに皆さんは選ばれた種族です。世界史上驚くべきこの時代に生を受けることを可能にしてくださった神に対して、皆さんが感謝の念で心を満たされるよう願ってやみません。

若い皆さんは、まさに王国の神権者です。皆さんは、ナザレのイエスにバプテスマを施したヨハネが行使したの

と同じ神権を、頭に手を置かれて授かっているのです。ふさわしい生活をすれば、皆さんは恵みを施す天使から慰めや守り、導きを受けられることでしょう。この世の王国に属する人でこれほど偉大な祝福を得られる人はいません。これらの祝福を受けられるように、ふさわしく生活してください。

ペテロは「聖なる国民」と言っています。それは、神の聖徒の大きな集合体、神のみ前に聖い道を歩み、イエス・キリストを救い主、王としてあがめる兄弟姉妹の集まりのことを指しています。若い兄弟姉妹の皆さん、この聖なる国の国民になることはなんと貴い特権でしょうか。この国の民であることから受ける権利や特権、責任を決して軽んじることはないようにしてください。

ペテロの最後の言葉は「特異な民」です。

実際皆さんは特異です。もしも世界が今のままの流れで進み、皆さんがこの教会の教義と原則に従って歩むならば、ほかの人の目には、皆さんはさらに特異に映るでしょう。

皆さんは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、神から与えられた多くの標準を教わってきました。それらの標準は、モーセが山でエホバと言葉を交わした時に、主がその指で石の板に記された戒めを基としています。皆さんはそれらの標準をよく知っています。

また、皆さんが教わってきた標準は、イエスが群衆に向かって語られた八福の教えを基本としたものでもあります。これらは主のほかの神聖な教えとともに、道徳律、価値観、神の教義の基であり、皆さんがよく理解し、そのとおりに生活しなければならないものです。

そしてそれらに、近代の啓示により与えられた規則や戒めが付け加えられています。

これらの基本的な、また神から与えられた原則や律法、戒めがひとつに結び合って、皆さんの価値観とならなければなりません。もし皆さんがその様式に従ってみずからの生活を整えるならば、平安と幸福を得、成長し、実りある人生を送れることを約束します。しかし守れなければ、その程度に応じて失意と悲しみ、苦痛、そして悲劇という実を味わいます。

皆さんは、教えられた標準に合わない行ないをすれば、必ず罰を受けることとなります。私は、皆さんが周囲にある卑俗なものを遠ざけて生活するようにチャレンジします。

自制心を失わせる危険のある、ビールなどのアルコール性飲料を口にしないようにしてください。たばこを吸うようなことはせず、主が皆さんを導くために与えてくださった標準に恥じない行動をしてください。法律で禁じられた薬物を自分で用いたり人に渡したりすることは、恐ろしい病気と同じよ

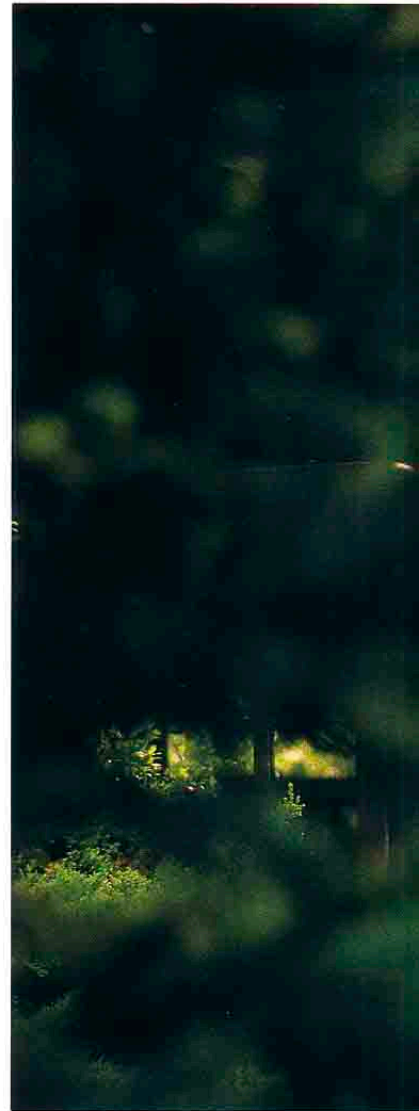
うに遠ざけなければなりません。

どのような形のものであれ、ポルノグラフィーにはいささかも手を染めてはなりません。不道徳な行為に加わったり、性的な欲望に身を任せたりする危険を犯すことがあってはなりません。心の中にわき起こる、男性が女性に、女性が男性に魅力を覚える感情は神の計画の一部ですが、皆さんはそれを抑制し、コントロールしなければなりません。そうでないとこれらの思いによって、皆さんは汚され、主が備えておられる大いなる祝福の多くを受けられなくなります。

学校で不正行為をしたり、万引きなど、いかなる形であれ、盗みを働くようなことをしたりしてはなりません。

皆さんは、天の神が授けてくださった規則や教え、原則にそぐわない行ないをするという危険を犯してはなりません。なぜなら、主は皆さんを愛し、皆さんの人生が豊かで目的のあるものとなるように願って、これらの教えを授けられたからです。

また、軽薄で有害なテレビ番組を見ることに時間を費やしてはなりません。今のテレビ番組の多くは、そのようなもので占められています。もっと価値のあることがあるはずですが。皆さんが生きていく世の中は、これからさらに競争が激しくなるでしょう。皆さんがこれから社会の一員として、重要な責任を果たしていけるよう、さらに高い



教育を受け、技術を磨き、能力を高める必要があります。

少しの間、天の御父の計画の中で皆さんがなぜ今ここにいるのかを考えてみてください、また主から授けられたこの人生の中で、価値あることを行なう可能性が、計り知れないほど与えられていることを思い起こしてください。私たちの皆さんへの愛を感じていただきたいと思います。皆さんに感謝しています。そして皆さんを信頼しています。皆さんが、教会や社会で指導者として立つ日が間もなく訪れることを知っているからです。皆さんは将来の社会にあって、重要な責任を担うかたがたなのです。□



皆さんがこれから社会の一員として、重要な責任を果たしていけるよう、さらに高い教育を受け、技術を磨き、能力を高める必要があります。

ホームティーチャーへの提案

1. ゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の勧告は、特に教会の若人へ向けられたものである。しかし、すべての末日聖徒にも当てはまる。——「基本的な、また神から与えられた原則や律法、戒めがひとつに結び合って、皆さんの価値観とならなければなりません。」
2. 今は、世界史上最も大いなる時代であり、現代の若人は「選ばれた種族」である。
3. 私たちは今日、イエス・キリストの回復された福音を通して、知識と光、真理の偉大な開花の恩恵に浴して

いる。

4. 平安と幸福を得、成長し、実りある人生を送るためには、周囲にある卑俗なものを遠ざけ、これまでに教えられてきた標準にふさわしい行ないをしなければならない。
5. 神は私たちを愛し、私たちの人生が豊かで目的のあるものとなるように願って、さまざまな原則を授けられた。
6. ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会の若人に向けて、次のように語っている。「私たちの皆さんへの愛を感じていただきたいと思います。皆さんに感謝しています。そして皆さんを信頼しています。」

心の奥底から

ハーペル・パティカウエン

17歳の誕生日を1カ月後に控えた1992年7月12日、私はフィリピン・バギオステーキ部バクダルワード部でバプテスマを受けました。今までで最高のバースデープレゼントでした。

バプテスマを受けた時から証^{あかし}はありましたが、私は福音をさらに深く理解し、教会に対するより強い証を持ちたいと切に望んでいました。しかし、このころは私にとって困難な時期でした。自分の証がさまざまな方向から揺さぶられているようでした。

祖母はよく、安息日を守ろうとする私を思いとどませようとしていました。妹のマイラと私が教会に行くためにお金をたくさん使うので、祖母は快く思っていなかったのです。家が教会から遠くて、交通費がかさむからです。でも私にとっては、教会で聞ける神のみ言葉は、教会に行くためのお金などには比べようもないほど、はるかに価値のあることでした。

また友達との交わりの中でも試練がありました。友達の中に、別の教会に行っている男の子が4人いました。そして聖書の教えについてよく話してくれました。私がモルモンだとわかると、私たちの教会はキリスト教ではないと

いう内容のパンフレットをくれました。私のためになると心から思って、そのパンフレットをくれたのでしょう。

興味を覚えたので読み始めました。私たちの教会をおとしめるような否定的なことが多く書かれていました。読むにつれ、頭が混乱し、教会に対する疑問でいっぱいになりました。それでも教会が真実である信じたいと思いました。福音を学び、教会に通ううちに、すばらしい経験をいくつも重ねてきていたからです。でもその時の私は混乱し、疑念が生じてきていました。まるで心がふらふらとさまよっているようでした。とうとう教会に行くのをやめ、モルモン経を読まなくなっていました。怖かったです。

とうとう、とてもひとりではこの疑惑を払いのけられないと思い、パンフレットをくれた友達のひとりであるジョーイの元へ行き、自分の気持ちを打ち明けました。クリスチャンである彼は、一緒にお祈りをしようと提案してくれました。彼は祈りの中で、私が真理を悟って、平安を得られるよう、神様に願い求めてくれました。

彼が祈り終わると、自分自身でも助けを求めて祈るようにという促しを感

じました。ジョーイは意義深い教訓を与えてくれたものです。混乱の中にあつて、私は祈ろうとはしませんでした。実に恥ずかしい話です。どうして祈らなかつたのでしょうか。私は末日聖徒ではありましたが、非常に感情に流されやすく、いともたやすくこの相對する考え方に圧倒されてしまったのです。その日、家路に向かいながら、神が真実を教えてくださいと心の中でずっと祈っていました。

神はそんな私の祈りにこたえてくださいました。こたえてくださった方法についてはうまく説明できません。私が感じたものは、心の奥底から来たものだからです。ともあれ、私にはわかつたのです。今の私は全世界に向けて確信を持って宣言できます。「末日聖徒イエス・キリスト教会にはイエス・キリストの完全な福音があります」と。これは真実なのです。

世界じゅうの教会の青少年の皆さん、皆さんの中に教会のことで心が揺らいでいる人がいたら、こうお伝えしたいと思います。祈ることを思い出してください。神はあなたにこたえてくださるでしょう。□



DAGUPAN

THE BIBLE
MORNING



教会の代表者に 召されて

エストニアの教会設立に貢献した若者

バーバラ・ルイス

PHOTOGRAPHY COURTESY OF FAMILY AND MAREN YOUNCE;
GRAPHICS BY NEIL BROWN



エストニアのハリユマーにある高校に通うヤーヌース・シーラは、最終学年を迎えたころ、宗教について真剣に考え始めました。彼は神を礼拝する習慣のない国に住んでいましたが、宗教的な事柄についていくらかは知っていました。母親から神を信じることを教わったからです。ときどき、まだ幼かったころ、クリスマスになるとツリーにろうそくを飾り、エストニアのサンタクロースが来るのを待ってから、母親と一緒にキリスト教の教会に行きました。

ヤーヌースは最近、将来の進路を決めようとして、久しぶりにお祈りをしました。祈りの方法を覚えていたので。それは短いながらも誠実な祈りでした。「天のお父様、もしあなた様がほんとうにいらっしゃるのなら、どうか私を助けてください。」

ヤーヌースは高校を卒業すると、写真のスタジオで働くことになりました。フィルムの現像をしたり、写真の勉強をしたりしながら、霊的真理を探し求め続けました。やがて、政治的変化の

影響を受けてエストニア人の

生活が少しずつ変わり

始めました。人々は初め

て率直に政府に対する疑問を

投げかけるようになりました。

ある晩、ヤーヌースは何人かの友達と一緒に、愛国的な歌の集いへ行く途中、エストニアの国旗を肩に載せてひらひらさせていました。それを見て怒った警官が追いかけて来ました。そして彼らを捕まえると、旗をつかんではぎ取りましたが、彼らは叱責されただけで済みました。しかし、これでも警官の態度は、以前に比べれば大きく進歩したのです。

後にヤーヌースは興奮した声で母親に説明しました。「エストニアには特別な感情があるね。人々は国を愛しているし、みんながこの新たな平安と幸せを感じているんだ。」

それから、1989年のクリスマスの数週間前、ヤーヌースは30歳のエン・レンビートと出会いました。彼はヤーヌースにこう言いました。「私はキリストについて、また現在予言者が語っていることについて新しい証あかしを持っています。このすばらしいメッセージを聞きに私の家にどうぞいらしてください。」

ヤーヌースは考えました。「予言者が今日地上の人々に語っているなんて、すごいじゃないか。」彼は友達と一緒にエン・レンビートのアパートまで会いに行った時、背筋がぞくぞくするのを感じました。



エストニアはソ連崩壊後に独立したバルト諸国のひとつである。フィンランドから湾を隔てた場所に位置する、人口約150万の小国。エストニアが独立を宣言する少し前、人々が愛国心を平和的に表わす方法のひとつは、集会に参加し、国歌を歌うことであった。現在、エストニア人は宣教師の話聞き、教会の集会に出席することが公に認められている。

その最初の会合で、エン・レンビートはこう説明しました。「私の義理の父のパルテリー・ルーツァはフィンランドでモルモン教会に改宗し、エストニアの家族の元へ帰って来ました。どのポケットにもモルモンの信条を記した小冊子がいっぱい入っていました。」小さな部屋でヤーヌースたちに福音のメッセージを語るエンの目はきらきら輝いていました。

会合が始まってから1時間ぐらいうると、フィンランドから来たビジネスマンのウーシツバ兄弟が、この教会が真実かどうか神様に祈って、尋ねてみようかと提案しました。

ヤーヌースはこう思いました。「この家にいるとほんとうにいい気持ちができるし、彼の言うことには好感が持てる。」皆で祈っていると、彼は温かい気持ちを感じ、福音は真実であると思いました。ヤーヌースはこの知らせを携えて家へ帰り、母親に話しました。やがてふたりはエストニアで行なわれた最初の聖餐会せいさんに出席しました。

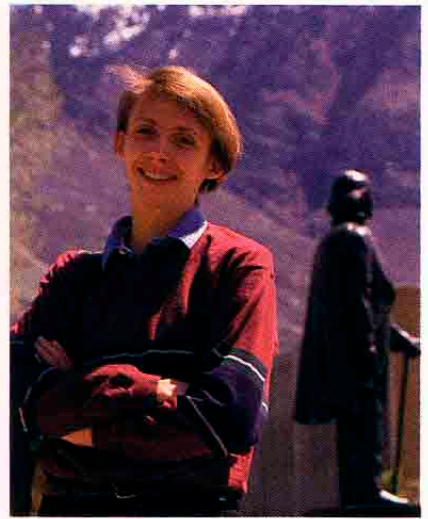
1989年12月16日、エン・レンビートはエストニアの地でバプテスマを受け

た最初の改宗者となりました。そしてヤーヌースは母親と一緒に1990年1月6日にバプテスマを受けたのです。

新たに見いだした宗教に心躍らせたヤーヌースと友人のウルマス・ラブクは福音を広めようと決心しました。街頭で少なくとも50人に話し、20軒の家を訪問しました。宣教師のように話し、ジョセフ・スミスの話とモルモン経について説明しました。後に宣教師たちはヤーヌースにこのような質問をしました。「どうしてそのようなことをしたのですか。だれが宣教師として行動する権威をあなたに与えたのですか。」

ヤーヌースは答えました。「聖書を読むと、だれもが宣教師にならなければならないと書かれています。奉仕したいという強い願いが胸に込み上げてくるのです。伝道の召しをもらうまで待つてなどいられません。」

長老たちはほほえみ、「でもね、この地に新しい伝道部を設立するためには、非常に慎重に行動し、会員が紹介してくれる友人だけに伝道する必要があるんですよ」と説明しました。フィ



ンランドのヘルシンキ東伝道部のステイーブン・R・ミーチャム伝道部長は、政府に教会を受け入れてもらうためにはそのような伝道方針がいかに重要かこれまで実証されてきた、と述べています。人々の気分を害さないように、伝道は慎重に行なわなくてはなりません。それ以来、ヤーヌースとウルマスは宣教師と一緒に働くようになりました。

エストニアは1990年の春、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老により、福音を宣べ伝える地として奉獻されました。6月29日、エストニア政府は教会を正式に承認しました。

エストニアの法律には、エストニア支部長会の構成メンバーではない教会員が教会の承認請願書に署名するよう規定されていました。ミーチャム伝道部長はヤーヌースに、教会を代表して政府の宗務官の前で宣言し、請願書に署名してもらえないかと依頼しました。

ヤーヌースは困って言いました。「そんな大役を果たせる人は、ほかにたくさんいるのではありませんか。」

「シーラ兄弟がこれまで非常に優れ

た指導力を発揮してこられたので、私たちはぜひあなたに署名する権限を委任したいと思うのです」と、伝道部長は答えました。

こうして、ヤーヌースは宗務官の前で、「末日聖徒イエス・キリスト教会は人々を助けるためにエストニアで活動する合法的な教会であり、教会の活動が政府の定める法律に違背することは決してありません」と証言しました。

そして、ヤーヌースはペンを取りました。ペンを走らせながらヤーヌースは、エストニアで最初の教会の集会に出席したこと、最初の正式な聖餐会せいさんに出席したこと、そしてバプテスマを受けた最初の若者のひとりであったことを思い出していました。彼の署名に続いて、20人が署名しました。□

ヤーヌースはユタ州ソルトレークシティ伝道部で伝道し、現在ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学に在学中である。

(「若き獅子たち——人並み以上の勇気を持った若者たち」より抜粋)

左ページ——1990年春、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老（後列右）は、福音を宣べ伝える地としてエストニアを奉獻した。当時ヨーロッパ地域会長会で会長を務めていたハンス・B・リンガー長老（後列中央）が立ち会った。前列左がヤーヌース。左——福音のメッセージを伝えるために専任宣教師と一緒に働くヤーヌース。右——専任宣教師として伝道を終え、現在ブリガム・ヤング大学に在学中のヤーヌース。

何がおかしいの！

カミーユ・ニュージント

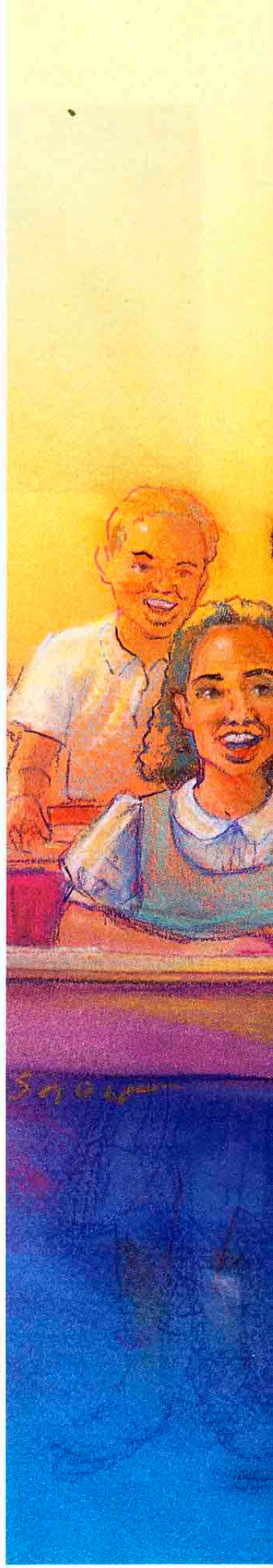
シヤマイカにある小学校の4年生の時のことです。ある日宗教のクラスで、先生が生徒たちに自分の宗教について話すように言いました。学校でただひとりのモルモンだった私は、末日聖徒イエス・キリスト教会を代表して答えることになりました。

私の番が近づくとつれて、心臓の鼓動はどんどん速くなってきました。人前で話すのは得意な方ではなく、大きな声も出ません。でも立ち上がると、目の前にいるおおぜいの生徒たちを見詰め、私たちの信じていることについてなんとか話そうとしました。まず知恵の言葉について、次に聖餐^{せいさん}について話しました。私たちのために亡くなられた救い主の肉と血の記念として、パンと水を用いることを伝えたのです。

すると次の言葉を言う間もなく、みんなが私のことを笑いだしたのです。涙が込み上げる中、私の話のどこがそんなにおかしいのだろうと不思議に思

いました。そしてさっと涙をふくと、「パンと水！ パンと水！」という冷やかしを浴びながら席へ戻りました。その日はずっとからかわれ続けたので、帰宅時間が来た時は、いつになくうれしくなりました。今でも、なぜ私の言ったことに対し、みんなからあれほどからかわれたのか理解できません。

家に着くと、母の大きな聖書を本棚から取り出して、さし絵を見始めました。ページをめくっているうちにある聖句が目に入りました。すぐにページを戻して読んでみることにしました。それはマタイによる福音書第10章32節でした。「だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。」その言葉を何度も読み返すうちに平安な気持ちに包まれました。「人に笑われても、正しいことをしているのなら気にすることは無い」と気づいたのでした。□



ILLUSTRATED BY SCOTT SNOW



次の言葉を言う間もなく、みんなが私のことを笑いだしたのです。涙が込み上げる中、私の話のどこがそんなにおかしいのだろうと不思議に思いました。



みたまの声

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

神 聖な事柄を教えなければならない責任の重さを、私は痛感しています。現在の世界が、私のかつて知っていた世界と大きく異なりつつあることも、じゅうぶんに承知しています。価値観も変わりました。よいものを尊ぶ気持ちや基本的な品位が後退し、道徳的な暗闇が世を覆いつつあります。

教義と聖約の中に、末日聖徒にとって大切な聖句が記されています。「生ける神の言に耳を傾けよ。」(教義と聖約50:

1) みたまの声はあらゆる人々に語りかけます。「『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり」(教義と聖約84:46)と、主は言われました。さらに「この『みたま』の声を聴くすべての人は神に来る。すなわち、御父の許に来るなり」(教義と聖約84:47)と、続けて言われました。

ある人々は豊かな生活を求めています。しかしパウロは「霊は人を生かす」(IIコリント3:6)ことを明らかにしています。確かに、救い主はこう言われました。「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命

みたまの声に耳を傾ける人々は、みたまによって導きを受ける。世の声に耳を傾ける人々は心を悩ませながら過ごすようになる。あなたはどちらの声を聞き、信じるだろうか。



である。」(ヨハネ6:63)

みたまの実とは何でしょう。パウロは「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制」(ガラテヤ5:22-23)であると言っています。私たちの求める喜びとは一時的な感情の高揚ではなく、長年の体験と神への信頼から生じる絶え間ない内なる喜びです。ラルフ・ウォルド・エマソンは、「正直さとは絶えざる勝利を意味する。そこには歓喜の叫びではなく、変わらぬ確固とした喜び

そのものである落ち着きが伴う」と述べています。(『人格』「ラルフ・ウォルド・エマソン全著作集」p.268)

リーハイは息子のヤコブを教えるために、こう言明しています。「人類が現世に在るのは幸福を得んためである。」(IIニーファイ2:25)このすばらしい目的を遂げるには、私たちは「生ける神の言に耳を傾け」(教義と聖約50:1)なければなりません。

私は生きた証人として、みたまに耳を傾けることから幸福がもたらされると証します。私にもその経験があります。福音に従って生活する人は、ニーファイ人が経験したように「みな幸福に暮らす」(IIニーファイ5:27)方法を学びます。この教会が設立されている世界じゅうのあらゆる国々で、会員たちは口をそろえて私と同じ証を述べるでしょう。みたまの実である平安、希望、愛、喜びの約束が真実であることを証する証拠は豊富にあります。これらのみたまの実が神のすべての子供たち

に行き届くように、私たちは声をひとつにして願うばかりです。

いろいろな種類の声

しかし私たちはほかの声も聞きます。パウロは「世には多種多様な声がある」(欽定訳 I コリント 14:10) と言っています。それらはみたまの声と競う声であり、それがこの世の現状です。みたまの声は常に聞こえますが、静かです。

敵はこの声を数多くの、騒がしくて執拗な、説得力のある魅惑的な声でかき消そうとしています。そうした声には、不正を知りつつそれをでっち上げる不平の声、チャレンジや努力を忌み嫌う怠惰の声、情欲をかき立てる誘惑の声、人を欺いてこの世での安全を確信させるなどだめすかす声、知識をひけらかし優越感にひたる知性のある声、人間の腕により頼むうぬぼれの声、プライドを満たすへつらいの声、希望をくじく冷笑する声、娯楽の追及に駆り立てる歓楽の声、「価値のないものに金を使」い「満足させることのできぬものに労力を費す」(II ニューファイ 9:51) よう誘惑する商売の声、興奮願望を引き起こす錯乱した声などです。

ここで言う「興奮願望」とは麻薬やアルコールによる興奮だけでなく、スリルを覚える以外は無意味な、死を賭した無謀な挑戦も意味しています。命は私たちに授けられているとはいえ、主に申し開きをしなければならぬ尊いものであり、軽々に扱うべきではありません。いったん失えば取り戻すことは不可能です。そうした実例は山ほどありますが、誤った考えを植えつけることを恐れ、列挙は避けたいと思います。ジョセフ・F・スミス大管長は「罪の知識は犯罪を誘う」と述べました。(「福音の教義」p.359)

どう生きるか、どう情熱を満たすか、どうすべてを満足させるかといった事柄を告げる無数の声、次代を担う世代に押し寄せます。彼らは500にも上るテレビチャンネルを選択することができます。あらゆる種類のソフトウェア、コンピューター通信用モデム、データベース、コンピューター掲示板も登場します。デスクトップ・パ

ブリッシング(卓上出版)、衛星放送受信機、種々のコミュニケーションネットワークは洪水のように情報を流します。地元のケーブル放送は地域のニュースだけを提供するようになるでしょう。

あらゆる人がもっとふるいにかけられるでしょう。落ち着ける安全な逃げ場所はさらに少なくなります。これからの青年男女は、かつての世代が経験したことのない害悪や邪悪にさらされることになるでしょう。このような見通しの上に立つと、T・S・エリオットの次の言葉が思い出されます。「知識の中に失った知恵はどこにあるのか。情報の中に失った知識はどこにあるのか。」(『岩』からのコーラス』「全戯曲・詩集」p.96)

中には欺かれて、悲しみや胸の張り裂ける思いで生活を送る人々が間違いなくいるでしょう。一方では、エレミヤの記した次の約束を享受する人々がいるはず。「わたしの律法を彼らのうちに置き……。」(エレミヤ 31:33) 忠実であることが、将来はある意味で、手車を引いて大陸を横断するよりも大変かもしれません。アメリカの辺境地でだれかが亡くなると、なきがらは埋葬して、手車は西部を目指し続けました。しかし悲しみを抱いた生存者たちは、愛する人々が永遠に生き続けるという希望を持っていました。反対に罪悪という荒野の中である人々が霊的な死を迎えると、希望は消え、永遠の別れという心配と恐怖が取って代わります。

次代を担う世代の中には、何でも今すぐ欲しい、という世の中の風潮に押し流されている若者がたくさんいます。そうした自己中心的な忍耐力のない欲求によって、人々は誘惑を受けやすい状態になります。モルモン経はサタンの用いる誘惑を次の4つに分けています。利益、この世の権力、人気、肉欲とこの世の物に対するむさぼり。(I ニューファイ 22:23参照)

サタンの策略は「彼らの心を動して真理より離れしめ、その心を暗くして、彼らのために備えられたることを覚ること能わざらしめん」(教義と聖約 78:10) というものです。サタンは煙のスクリーンを張って、私たちの視野を曇らせ、注意をそらします。

ヒーバー・J・グラント大管長はこう語りました。「もし私たちが神の戒めを守ることに忠実なら、その約

救い主がアメリカ大陸を訪れられた時、人々は主のみ声を理解しようと特別な注意を払わなければならなかった。

東は文字どおり成就するであろう。……問題は、人の霊の敵が私たちの精神を盲目にしてしまう点だ。言うなれば、人の目にごみを投げ入れ、この世の物で盲目にしてしまうようなものだ。」（「福音の標準」 pp.444-445）

末日聖徒としての私たちの課題
はどの声を選んで耳を傾け、信じるかという点にあります。個人にとってこの問題は大きな意味を持っています。

自由意志を賢明に用いる

第1に、私たちが生きていくには自由意志を賢明に用いる必要があります。アマレカイは、私たちがどのようにすれば正しいチャンネルを選択できるか、次のように教えています。「主から出るものはことごとく善であり、悪魔から出るものはみな悪である。」（オムナイ1：25）私たちは時々刻々、選択を強いられています。主から出るものと悪魔から出るものとの間で何度も選択を繰り返しています。小さな水のしずくが地形を変えてしまうように、私たちの分刻みの選択が人格を形成していきます。日々永遠の福音にそって生活する方が、教会と主のために死ぬことよりもむずかしいかもしれせん。

モルモンも「人を誘惑してこれに罪を犯させ」るものと「すべて善い行いに人を誘い導いて善いことをさせ」るもの（モロナイ7：12-13）とを比べ、次いで判断の基準を示しています。

「あなたたちは判断をするに用いて力ある光、すなわちキリストの光を知っているから判断を誤らないように注意せよ。……

それであるから兄弟たちよ。私はあなたたちが善悪を



CHRIST APPEARING IN THE WESTERN HEMISPHERE, BY ARNOLD FRIBERG

^{わきま}弁えるためにキリストの光をもって熱心に探すことを乞い願う。あなたたちがもし一切の善いことをつかんでこれを拒まなければ必ずキリストの子となる。」（モロナイ7：18-19）

他人から借りた光で人生を歩むことはできません。命の光は自分自身の一部でなければなりません。私たちが注意を払わなければならぬ声は、みたまの声です。

人生の目的を考える

第2に、私たちは目的を持つ必要があります。この世に生を受けた人はすべて目的を持たなければなりません。キリスト教会の会員として私たちは、救いの末について考えるよう戒められています。（教義と聖約46：7 参照）

主はこう言われました。「もし汝ら誠心誠意わが光榮を顕さんとすれば、汝らの全身光明に充たされて汝らの中に暗黒なく、その光明に充ちたる体はすべての事を理解せん。」（教義と聖約88：67）使徒ヤコブはこう警告しています。「二心の者〔は〕そのすべての行動に安定がない。」（ヤコブの手紙1：8）さらにオルソン・ハイドもこう述べました。「心を集中させよう。そうすれば全能の力が宿る。心は肉体で身を包んだ全能者の萌芽である。したがって私たちは心を鍛え、それをひとつの目的に専念させよう。」（「説教集」7：153）

救い主がアメリカ大陸を訪れられた時、多くの正しいニーファイ人は、主のみ声を理解するために、特別な注意を払わなければならませんでした。

「天から出てくるような声が聞えたが、群衆はこれが何を言っているか解らなかったのであたりを見まわした。この声は荒々しい声……でもなかったが、小さな声でありながらもこれを聞いた者たちの骨の髄までつき通るようであって、かれらは全身ことごとくふるえおののいた。この声はまことにかれらの中心にまで浸みわたり心が燃

えるような感じを与えた。」(IIIニーフアイ11:3)

彼らは再びみ声を聞きましたが、わかりませんでした。3度目にそのみ声を聞いた時、彼らは「よく聞き分けるように心を注いで声のする方向へ目を向け、その声が出てくる天をじっと眺め」(IIIニーフアイ11:5)しました。

私たちは旧約時代のエリシャが体験したように、目に見えない軍勢に守られていることを知るべきです。スリヤ王が予言者を捕らえるために馬と戦車の大军を遣わした時のことです。彼らは夜のうちに来て、町を囲みました。そのおびただしい軍勢を見たエリシャの召し使いは大変恐れ、エリシャにこう言いました。

「『ああ、わが主よ、わたしたちはどうしましょうか。』

そしてエリシャが祈って『主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください』と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。」(列王下6:15, 17)

このおびえる召し使いに答えて、エリシャは次のように言いました。「恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。」(列王下6:16)

私たちが主のみこころを行なおうとするとき、目に見えない軍勢が私たちを見守っていることを、私は信じています。エリシャの言葉を忘れないでください。「われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。」

あかし 証を強める

第3に、私たちは証を強めなければなりません。この世の人は皆、霊的な目標を持つ必要があります。人生の目的を知るひとつの方法は、祝福師の祝福を受けることです。最近、祝福師の祝福を受けたひとりのすばらしい青年は、祝福の最中に、「この福音のために大きな犠牲を払ったあなたの先祖の多くが、今訪れています」と告げられました。祝福師の祝福は人生の目的を知るための、ひとつの大切な方法です。

救いの計画に対する知識を得、私たちがこの地上にいる理由、向かっている方向を知ると、私たちの証は強め

られます。さらに、信仰によって歩むとき、私たちは証と信仰を強めてくれる霊的な経験を心の中で認められるようになります。

この世代の人々は、選ばれた世代の人々です。女性は大きな使命を授かっています。スペンサー・W・キンボール大管長はこう記しています。「今日、教会の中で女性であることは、ひとつの大きな祝福です。正義に対する攻撃が現在のように大きかったことはありませんが、同時に、私たちの可能性を最大限に発揮する機会が今ほど与えられている時期もありませんでした。」(「女性」p. 2)

女性はパウロの語った、信仰と希望と愛という霊の賜(Iコリント13:13参照)を天から豊かに授かっています。したがって女性の使命の一部は、養育者、教師、そして家庭でも教会でも洗練された影響力を発揮する者として、女性の崇高な徳を示すことにあります。女性は人類最高の美なのです。

私たちは救いの計画を学び、それに対する証を得なければなりません。「すなわち、神は贖いの計画を示したもうてから、悪を行ってはならないと言う法令を人類に下したもうた。」(アルマ12:32)さらに私たちは自分と神との関係を学ばなければなりません。信仰によって歩むとき、私たちは証と信仰を強めてくれる霊的な経験を心の中で認められるようになります。

聖典を調べ、指導者の教えに従う

第4に、私たちは聖典を調べなければなりません。聖典は「主の言……、主の声……、世を救いに導く神の能力」(教義と聖約68:4)だからです。主はご自身のみ言葉に関して、さらにこう言われました。「この言を汝らに語れるはわが声なり。そはわが『みたま』によ

「そしてエリシャが祈って『主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください』と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。」(列王下6:17)



りて汝らに与えられ、わが能力によりて互いにこれを読むを得るなり。……

これを以て、汝らわが声を聞きわが言を知るを証するを得べし。」(教義と聖約18:35-36)

第5に、私たちは教会幹部の神聖な召しに対して確信を得なければなりません。そして進んで彼らの教えに従う必要があります。私は教会員の皆さんに次のような助言をしたいと思います。

神権を敬ってください。 この世代の皆さんは選ばれた世代です。男性の皆さんは王国の神権者の一部なのです。男女を問わず皆さんは、確かに創造の以前より選ばれ、この時代に生まれるために準備されてきたかたがたです。私たちは皆さんを愛しています。皆さんを信頼しています。主のみ業を推し進めるといふ、皆さんの前に置かれたチャレンジに耐えられるかたがたであると知っています。それは簡単なチャレンジではありません。皆さんは道徳的な感覚を麻痺させる環境の中で生きています。しかし、忘れてはなりません。だれかが常に皆さんを見ていますし、皆さんの話を聞いています。神権者を支持し敬うなら、皆さんの生活を安定させる大きな力となるでしょう。

道徳的な清さを守りましょう。 若い男性女性の皆さんは、正直で忠実であるなら、最終的には大きな報いのあることを信じなければなりません。この世の快樂は天国の喜びとは比べものになりません。何かをしなかったり、人とは違うことをしたりするのは受けがよくないかもしれませんが、しかし永遠の過ちを犯すよりは、ひとりであり、正しいことをしたりする方がよいのです。若人の皆さんは、標準を破らせる人々とはなく、標準を守るように助けてくれる人々との交流を深めてください。若人は自分自身の標準に従って生活することを学ばなければなりません。仮に標準の大切さが理解できなかったり、何らかの間違いを犯したりしたとしても、サタンに負けて自尊心を失い、失望落胆してはなりません。皆さんは「若人のために」という小冊子を持ち歩いて、頻りに読み、両親や指導者の話によく耳を傾けてください。主の助けを得て解決できない問題など何ひとつありません。

若人の皆さんは早く大人になろうとして、正しい生活を送るヤングアダルトの喜びを見失わないでください。楽しいデートの期間を過ごし、おおぜいの友人を作り、自分自身と自分の将来に自信を持ちましょう。働くことを覚え、待つことを学ぶ必要があります。

私は広く行き渡った誤った教義について警告します。「計画的な悔い改め」とでも呼ぶことにしましょう。これは、後で悔い改めれば神殿結婚や伝道のような福音の完全な祝福は受けられるとして、意識的に罪を犯し続けることです。ますます邪悪になっていく社会の中で、汚れずに悪をもてあそぶことはほぼ不可能です。ニーファイはすでにこの愚かな「計画的な悔い改め」について予知していました。

「『飲み食いをして楽しめ、しかし同時に神をおそれよ。神は小さな罪を犯すことは許したもう。それであるから少々偽を言い、人の言葉につけ込んで欺き、隣人をおとし入れる穴を掘れ。これは少しも悪い事ではない。われらは明日死ぬかも知れないから、すべてこのようなことをしても差支えない。たとえ、われらに罪があると認められても、神はわずかにわれわれを鞭うちたもうだけであって、われらは結局神の王国に救われる』と言う者も多くある。」(IIニーファイ28:8)

このような教義を唱えるすべての人に対し、主は次のように言われました。「その時に、聖徒たちの血は地の中から叫んでかれらを主に訴える。」(IIニーファイ28:10)

社会の多くの人々の心が一般的にかたくなで冷淡な今の社会にあつて、主が若い世代をどのように訓練されるのか私にはわかりません。聖書の中には主が民のうちに「火のへび」を送られたとあります。(民数21:6参照)民がかまれてから、主は傷を癒す方法を備えられました。モーセは主の命令を受けて、青銅のへびを造り、それをさおの上に掛けました。へびにかまれた者が癒されるには、その青銅のへびを仰ぎ見るだけでよかったです(民数21:8-9参照)のですが、多くの人々にとって、これはあまりにも簡単すぎました。そして、「この骨折りが簡単で容易であつたがためにかえって死んだ者が多かつた」(Iニーファイ17:41)のです。

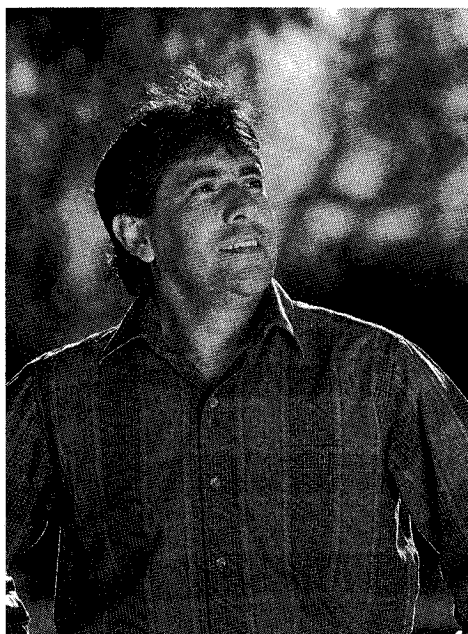
聖霊の声に従う

波長を合わすべきチャンネルの明瞭な選び方について、これまで提案してきました。聖霊の声を聞き、従うということです。これは昔から言われてきた教えですが、確かに永遠の解決法です。それは、常に新しいものを探そうとする現在の社会では人気のない方法かもしれません。

さらにこの解決法は、瞬時に満足感を得ようとする現在の世の中であって、忍耐を必要とする方法です。騒々しく、多忙でせかせかせした、派手で無作法な世界の中であって、それは静かで平安に満ちた繊細な方法です。ほかの人々が肉体的な刺激ばかりを追い求めているのとは反対に、この方法は私たちに落ち着いて考えることを要求します。予言者は私たちにこの方法を伝えようとして、次のように言っています。「あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいるが、……これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたい……。」(IIペテロ1:12) 身の回りに氾濫するささいな情報をいちいち心に留めることなど、何の価値もないとされる現代であって、これはばかげたことのように思えるかもしれません。

しかし、聖霊に聞き従うという解決法は、情熱や変化、新鮮さを失い、何もかもが急激に陳腐になっていく世の中であって、古代から変わることなく綿々と続いている教えなのです。見えるものによって(IIコリント4:18, 5, 7参照) 支配されている世の中であって、この解決法は私たちが信仰によって歩ませてくれます。人類の多くは、単に肉体の感覚でのみ知り得る世俗的な事柄に頼っていますが、私たちは永遠の信仰の目で霊的な真理を見詰めなければなりません。

結局、この聖霊に聞き従うという解決法は、人気もなく、この世的な権力や利益にはつながらないかもしれません。しかし、「このしばらくの軽い患難は働いて、永



PHOTOGRAPH BY STEVE BUNDERSON

みたまに波長を合わせるなら、「うしろで『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く」(イザヤ30:21) ことができるだろう。

遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させる」のです。(IIコリント4:17)

私たちは聖霊に関する事柄に思いを巡らし、その導きに従わなければなりません。サタンによって持ち込まれる不純物は取り除かな

ければなりません。みたまに波長を合わせるなら、「うしろで『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く」(イザヤ30:21) ことができるでしょう。

「生ける神の言に耳を傾け」る(教義と聖約50:1) ことは「この世に在りては平和を得、次の世に在りては永遠の生命を得」る(教義と聖約59:23) ことです。これらは、あらゆる賜のうち最大なるものなのです。(教義と聖約14:7参照)

わたしはパウロとともに主イエス・キリストの父なる神にこう祈ります。

「どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活[し]、

また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように……。」(エペソ3:16-19)

私は、私たちの霊が特別な霊であること、吹きつける悪の風に強く立ち向かい、私たちに課せられる重荷を担ってまっすぐ立つために現在まで天上に取っておかれたことを信じ、また証します。そして、目の前にあるこの偉大なみ業に対し、私たちがこれからも忠実かつ誠実に取り組んでいけることを確信しています。□

聖典を 声に出して読む

ペリー・プラット、ジャナ・プラット



最初の子供がまだ幼かったころ、私たち夫婦はモルモン経から直接読んで聞かせるように心掛けていました。そしてこれを我が家の伝統にして、5人の子供全員に対して同じように続けてきました。毎晩家族みんなで聖典の中から興味をそそる物語を読みます。私たちの大好きな話は、ニーファイと真鍮版、森で捧げたイノスの祈り、アピナダイの証と火による殉教、息子アルマの改宗、そしてニーファイ人を訪れられたイエスについてのものです。

これらの話を何度も何度も読んでいくうちに、子供たちは聖典の言葉に慣れ親しんでいきました。途中で読むのをやめて言葉や文章を説明することもあれば、子供たちが文章の流れやそこに込められた思いを感じられるように、物語を聖典に書かれているとおりに最後まで読み聞かせることもあります。

子供たちは確かにモルモン経の言葉をよりよく理解するようになりました。でもそれ以上に、彼らはみたまを感じるとはどういうことかを理解するようになりました。ある晩、聖典の勉強を終えた後で息子のスペンサーが私にささやきました。「ママ、ぼくいい気持ちができるよ。」

「どうしていい気持ちができるの。」

息子が答えました。「だって聖霊を感じるんだもの。」

1986年4月の総大会で、エズラ・タフト・ベンソン大管長はマリオン・G・ロムニー長老が以前に話した美しい約束を引用しました。

「家庭の中で両親が定期的に祈りを込めて、……モルモン経を読むならば、このすばらしい書物のもたらす精神が必ずや家中にみなぎり、一人一人の心の中にあふれるでしょう。敬虔の念、お互いの尊敬と思いやりの念がさらに深められ、相争う気持ちが姿を消すようになります。……そして、正義を愛する精神が高まり、信仰、希望、慈愛、すなわちキリストの純粋な愛が家の中にあふれ、安らぎ、喜び、幸福感に満ちた生活ができるようになります。」（『器の内側を清める』『聖徒の道』1986年7月号、p.6）

家族でモルモン経を読むことによって、私たちは大いに祝福を受けてきました。勧告に従って聖典を読むことにより、予言者が語った多くの約束が生活の中で成就するのを目にしてきたのです。□

「汚れもなく」

(賛美歌74番参照)

「われなんじの汝らを清浄にせんため、わが前に汝らの心こゝろを潔め、
また汝らの手と汝らの足とを清めよ。」(教義と聖約88：74)

ゼラヘムラの民に、靈性の非常に高まりとともに平和が訪れました。何千もの人々が教会に入り、主のみ業は驚くべき速さで前進しました。(ヒラマン3：20-34参照) このようなすばらしい時代を迎えたひとつの理由は、教会員の心の清さにありました。

心を清める

ヒラマン書には、ゼラヘムラの民がこのような清めを経験した過程として、「悔改くいあらためをしたしるしとしてバプテスマを受け」(ヒラマン3：24)、「イエス・キリストの御名を信」じ(28節)、「神の御言葉」によく従った(29-30節参照)と書かれています。また、断食や祈りとともに謙遜けんそんさが不可欠でした。(35節)

これらは、私たちの生活を清めるためにしなければならない事柄のひとつでもあります。言うまでもなく、この過程の中で最も重要なのはイエス・キリストの贖あがないです。イエスが私たちの罪を贖ってくださらなかったならば、私たちがどんなに努力しても自分で自分を清めることはできません。しかし、もし私たちが心から悔い改めて誓約を守る努力をするならば、救い主の贖いにより私たちは洗い清められ、聖霊が私たちの心を清めてくださるのです。(IIIニーフアイ27：19-20参照)

また、イエス・キリストは私たちに模範を示してくださいました。ハワード・W・ハンター大管長はこう述べています。「あらゆる機会に、『イエスだったらどうなさるだろうか』とみずからに問うてみる必要があります。



ILLUSTRATED BY SHERI LYNN DOTY

そしてその答えに従い、さらに大きな勇気を持って行動してください。……キリストようになるため、全力を尽くさねばなりません。キリストだけが、この世でただひとりの、完全で罪のない模範なのです。」「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号,p.97)

神を愛する者は 清い心で神に仕える

イエスは私たちに、神を愛することが第一の大切な戒めであり、ほかの人を愛することは「これと同様」であると思い起こさせてくださいました。(マタイ22：37-40参照) パウロは、愛は「清い心」から出るものでなくてはならないと指摘しています。(Iテモテ1：5) さいせん箱にレプタふたつを入れた貧しいやもめはこの特質を備えていました。(マルコ12：42-44

参照)

今日、このような心の清さを持った人はたくさんいます。ポニー・ハモンド姉妹は夫のF・メルビン・ハモンド長老(現在七十人)がボリビアで伝道部長をした時、ともに奉仕しました。彼女はボリビアで教会に入ったある姉妹についてこのように述べています。「彼女はとても忠実な人でした。完全にじゅうぶんの一分を納め、1カ月に1度24時間断食していました。訪問教師として割り当てられた11人の姉妹を訪問するために、足首が関節炎ではれ上がっているにもかかわらず、アンデス山脈のふもとを登る姿を私は目にしました。毎月、訪問を欠かしたことはありませんでした。人に言われなくても2マイル行き、留守のときには、山を登って再び訪問しました。

彼女は救い主、良き羊飼いを知っていました。自分もまた羊飼いであることを自覚し、キリストの純粋な福音で羊を養ったのです。」

私たちの心を清める唯一の方法は、福音の儀式を受け、言葉と行ないを通して主に従うことです。すぐに祝福が与えられないと失望する人もいられるでしょう。しかし、「真にへりくだった心と悔いる精神」(IIニーフアイ2：7)をもって救い主に近づくかぎり、主の贖いあがなが私たちの生活と私たちの心を清める力を持っていることは確かです。

●私たちの心を清めるために、贖いの力をどのように用いたらよいでしょうか。

●さらに私たちの生活を清めるのを妨げるものは何でしょうか。□

チェコスロバキアで受け継が

ルース・マッコンバー・ブラット、
アン・サウス・ニンドルフ

フランシスカ・ベセラは1881年、ボヘミア南部（現在のチェコ共和国）の小さな田舎町で10人兄妹の末娘として生まれました。フランシスカは「天使のようにやさしい、信心深い母親に恵まれ」、その影響は彼女にとって生涯霊的な力の源となりました。¹

母親の死後、18歳のフランシスカはオーストリアのウィーンに移り住み、姉とふたり暮らしを始めました。その後1904年、フランシセク・プロディルと結婚し、ふたりの娘、フランシスカ（フランシス）とヤナ（ジェーン）に恵まれました。

1913年、彼女は回復された福音を学び、ドナウ川でバプテスマを受けました。そして宗教上の迫害を避けるために、しばらくたったあるあらしの晩に確認の儀式を受けました。後に彼女はその時の経験を次のように語っています。「私の心は充足感でいっぱいになりました。確認の儀式を受けた時、自分の中に新しい力が注がれるのを感じました。」一方、彼女の夫は「教会に対しては友好的でしたが」教会に入るまでには至りませんでした。

しかし、フランシスカが回復された福音の中に見いだした新たな希望と喜びは、第一次世界大戦の勃発によってくじかれてしまいました。戦火の続く中、彼女を含むほんのひと握りのウィーンの姉妹たちは聖書の勉強会を開いて「地元の兄弟たちがすべて戦争に駆り出され、宣教師たちが本国に帰還させられても、福音の光を燃やし」続けました。²

戦争が終結すると、オーストリアに住むチェコ人はすべて公職を追われ、フランシスカの夫も仕事を失いました。

1919年、夫は家族を連れてプラハ（新国家チェコスロバキアの首都）に移り住みましたが、その後間もなく世を去りました。

ふたりの幼い娘を抱え、夫に先立たれた女性にとって、生活は厳しいものでした。不慣れた土地にあって、兄から送られてくるわずかばかりのお金でやっと生き延びているといった状態でした。教会との接触が途絶えて2年が過ぎ、霊的にも飢え渴いていました。

1921年のこと、フランシスカがドイツ・オーストリア伝道部にあてて出した手紙を受けて、ウィーン支部からふたりの宣教師が彼女たちの元を訪れました。娘ふたりは彼らからバプテスマを受け、チェコスロバキアで最初にバプテスマを受けた会員となりました。

フランシスカの熱心な努力と祈りにもかかわらず、末日聖徒の宣教師の再来がないまま何年もの月日が過ぎました。そのように孤立した状態にありながらも、プロディル家には福音の影響力がみなぎっていました。フランシスカの娘フランシスが、「私は教会の中で育ちました」と確信を持って語ったほどです。

宣教師が再びチェコスロバキアの土を踏み日が訪れるよう祈り続けて10年がたった時、フランシスカは教会の大管長会に手紙を書くようにという強い気持ちを感じました。（現在では、会員はできるかぎり地元の指導者に相談するように勧められています）彼女は、その時の気持ちを次のように表わしています。「何か見えない力が私を促しているようでした。このことに関する私の最後の働きかけでした。後は主が何とかしてくださるだろうと思いまし

た。」³

ヒーバー・J・グラント大管長にあてた彼女の手紙はすぐにこたえられ、フランシスカは大きな喜びに満たされました。1929年7月24日、十二使徒定員会のジョン・A・ウィットソー長老がチェコスロバキアを福音を宣べ伝える地として奉獻し、アーサー・ゲースを伝道部長としてチェコスロバキア伝道部を創設したのです。

この輝かしい出来事についてフランシスカは次のように語りました。「私たちが経験した喜びを理解できる人はそういらっしやらないでしょう。この日が来るのを何年も祈り続けてきたのです。……私たちは心の底から主に感謝しています。」

晩年、フランシスカは宣教師たちの「母親役」を務め、伝道用のちらしの翻訳を助け、宣教師たちがチェコ語を話せるようになるまでの間日曜学校のクラスを教え、母国で最初の扶助協会会長として働きました。

1931年、フランシスカ・プロディルはこの世の生涯を終えました。ゲース伝道部長は彼女について次のような称賛の言葉を記しています。「プロディル姉妹が持っておられたキリストのような精神は私たちの胸に生き続けるでしょう。……彼女は私たちの母であり、相談相手であり、模範でした。」

ゲース伝道部長の語った言葉は、後の出来事を予言した形となりました。フランシスカが母親のごとくに与えた影響は、彼女の死後も長い間人々の間に残りました。ゲース伝道部長が1936年に解任され、ウォーレス・トロント伝道部長が跡を継ぎました。トロント伝道部長は教会史上伝道部長としては

れる伝道精神

最長の32年間その任に就きました。第二次世界大戦の困難な時期をはじめ、それに続いてチェコスロバキアが共産主義下に置かれ、教会がひそかに活動せざるを得なかった40年の大半を伝道

部長として働いたのです。そのほとんどの期間、トロント伝道部長は遠く離れた所からしかチェコの聖徒たちを援助できませんでした。

トロント伝道部長が1968年に亡く

なった時、ウィリアム・サウス夫妻がチェコの会員たちの信仰の支え手となるよう依頼されました。このサウス伝道部長の夫人こそ、フランチスカの娘ジェーン・プロディル・サウスでした。1977年、サウス伝道部長の健康が思わしくなくなってきた時、カルビン・マッコンバーと、その妻であり、フランチスカのもうひとりの娘、フランシス・プロディル・マッコンバーがその責任を受け継ぐように頼まれました。彼らは1980年マッコンバー伝道部長が亡くなるまでの間、この責任を果たし続けました。⁴

チェコスロバキアにおいて教会が公認されたのは、それからまた10年が経過した時でした。しかし、フランチスカ・プロディルによって示された信仰と忍耐のすばらしい模範は、聖徒たちを支え続けてきましたし、これからの世代にとっても大いなる遺産として受け継がれていくことでしょう。□

注

1. 抜粋部分は、出典表記が特にない場合は、すべてアーサー・ゲース『祈り求め、現実となった伝道部』『ミレニアルスター』1932年3月31日、pp.193-197より引用。

2. 「プラハ伝道部の母、死去」(「チャーチニュース」1932年2月13日、p.2)

3. ジェーン・プロディル・サウス、ブランチ・サウス・フォックス『祈り求め、現実となった伝道部』『主の御手』ドロシー・ハックワース編、1:277

4. カーリル・メール『チェコの聖徒たち——輝かしい時代』『エンサイン』1994年8月号、pp.46-52参照)



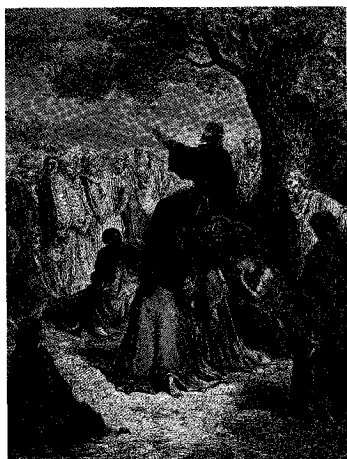
PHOTOGRAPH COURTESY OF RUTH MCOMBER PRATT

山上の垂訓を 結婚生活に生かす

ポール・K・ブラウニング

数年前、リックとジェーンは一緒にカウンセラーを訪れました。ふたりの結婚生活は、不和のためにぼろぼろの状態でした。この日ふたりはなんとか解決する糸口を探ろうと、カウンセラーの助けを求めたのです。カウンセラーは両者の言い分に耳を傾けました。ふたりは、互いに相手からどんな不当な扱いを受けたか事細かに話しました。ふたりの相手に対する反感があまりに強いので、カウンセラーには和解など不可能に思えました。なんとか解決法はないものかと模索していたカウンセラーの脳裏に、ふと山上の垂訓が浮かびました。そしてハロルド・B・リー大管長がかつて、山上の垂訓は「完全な生活を送るための憲法」（「立派な生活を築くための決断」p.57）であると語ったことを思い出しました。

カウンセラーはふたりに聖書を手渡し、マタイによる福音書の第5章から第7章を開けてもらい、こう話しました。「今週のうちに3度、ふたりで声を出して山上の垂訓を読んでいただけませんか。そして読み終わるたびに、その教えを実践するために、自分を変えなければならない点を各自で最低ひとつ挙げてください。相手にどう変わってほしいかを言うてはいけません。



自分自身の改善すべき事柄に焦点を当ててください。」ふたりはためらいながらも同意しました。

次の週、この夫婦は仲良くカウンセラーの所にやって来ました。その時には、夫婦間の問題を解決するために互いが譲歩し協力し合う備えができていました。カウンセラーからの宿題は少なくとも3つの成果を上げたようです。ひとつは、一緒に聖典を読むことでふたりの結婚生活にみたまが戻ってきたこと。次に、自分に焦点を当てるといふ宿題のおかげで、伴侶の行動やその動機を詮索する代わりに、自分自身を反省する機会が持てたこと。そして第3は、けんかせずに宿題を終えられたことでした。

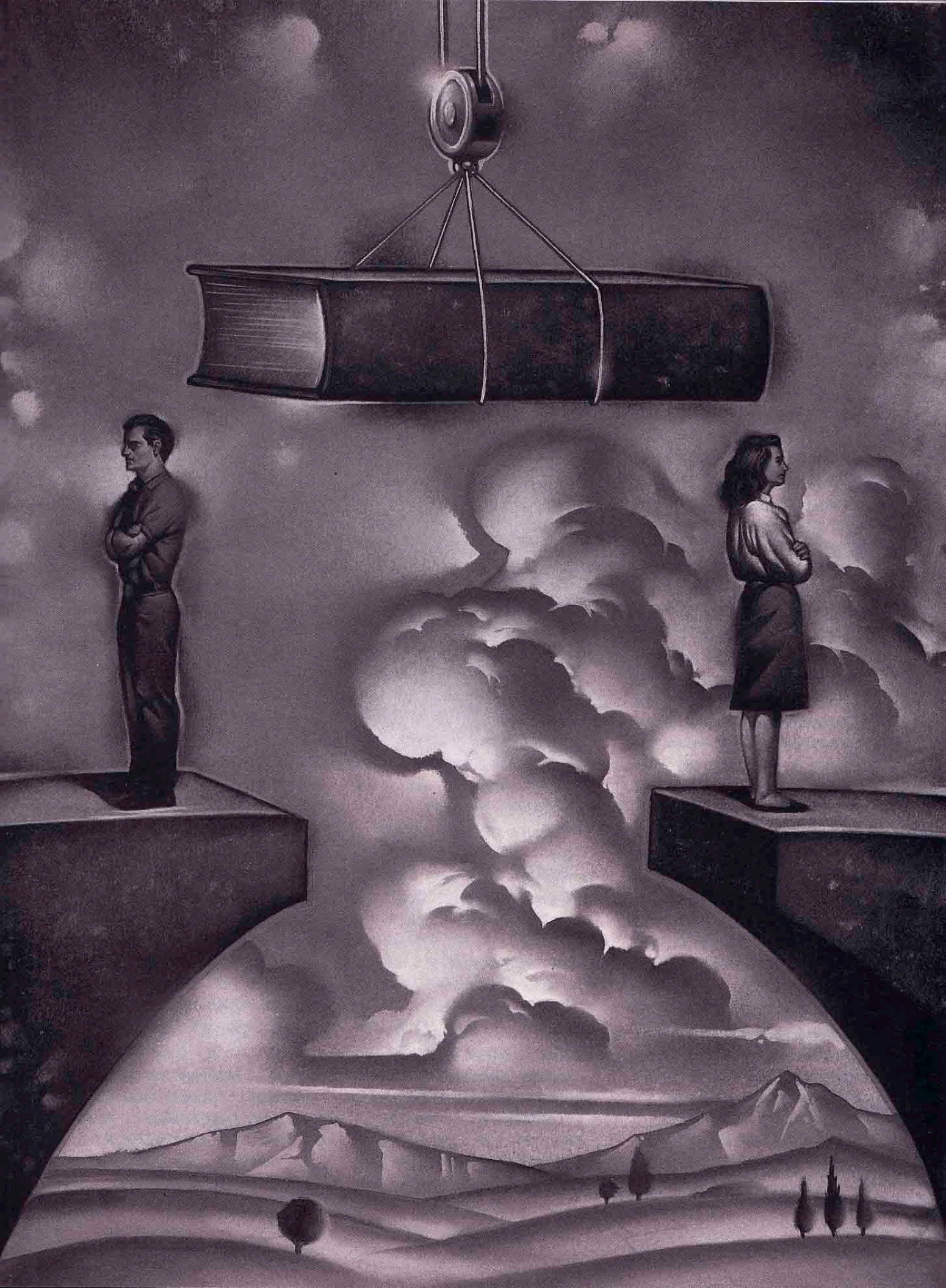
山上の垂訓には、結婚生活に問題があろうとなかろうと、どんな夫婦にも役立つ教訓が多く含まれています。山上の垂訓の中から4つの教訓について考えてみましょう。

ゆる 赦し合う

リチャードとキャロルは結婚して20年の夫婦でした。ふたりが夫婦間の問題を解決しようとして初めてカウンセラーを訪れた時、キャロルはリチャードが残酷で、狡猾で、思いやりが欠けたかんしゃく持ちだと不平を言いました。カウンセラーは、きっとリチャードがキャロルの言葉に反論してくるだろうと思って彼の方を見ました。しかし驚いたことに、リチャードはキャロルの言うとおりで言うではありませんか。後になってわかったことですが、リチャードは自分に劣等感を持っており、キャロルや子供たちの行動を縛ることで優越感を得ようとしていたのです。リチャードは自分には助けが必要なことを認め、一生懸命変わる努力をすと言いました。

それから1年間、カウンセラーはリチャードが次第にやさしく思いやり深

不信感と憤りのために、リックとジェーンの結婚生活はぼろぼろの状態だった。しかし、山上の垂訓にある主の教えと一緒に読むことで、誤解という名の溝を埋めることができた。



い人になっていくのを目にしました。リチャードも自分の進歩を喜び、自信を深めていきました。それにもかかわらず、キャロルは離婚の道を選びました。確かにリチャードは過去にキャロルを不当に扱いましたが、今では悔い改めて変わったのです。しかし、それでもリチャードを赦せないほど、キャロルの心の傷は深かったわけです。

リチャードとキャロルのようなケースは決して珍しいものではありません。多くの夫婦が長年恨みを抱き続け、時折その心の痛手を掘り返しては、相手に対する仕返しを正当化しようとするのです。そのような夫婦は、赦し合えないためにコミュニケーションが不足し、夫婦の関係は一層ぎくしゃくしたのようになってしまいます。

救い主は次のように教えておられます。「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさなければ、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」(マタイ6:14-15)

リチャードとキャロルの例に見られるように、互いの過ちを赦さないでいると、その重荷に耐えられず結婚生活が破綻する危険性があります。救い主は次のような方法を勧めておられます。「あなたを訴える者と一緒に道を行く時には、その途中で早く仲直りをしなさい。」(マタイ5:25) これは、いつも伴侶の言いなりになったり、利用されたりすることをよしとしなさいと言っているわけではありません。互いに

歩み寄り、夫または妻の行動をどう感じているか、はっきりと、しかも穏やかに伝え合うべきだという意味です。すべての人の動機やその人の直面している悩みを知ることが私たちには不可能だからこそ、主は「汝らにはすべての人を赦すことを求めらる」(教義と聖約64:10)と教えておられるのです。

赦すための鍵

1. 伴侶の考え方に照らして状況を見てみる。
2. 立場を変えて、夫または妻がどれほど赦してほしいと望んでいるか想像してみる。
3. 相手の長所をすべて思い出してみる。必ずと言ってよいほど短所より長所の方が多はず。
4. 自分の感情をコントロールできる自信があるときだけ話す。
5. だれが正しくてだれが間違っているか考えない。
6. みたまを求め。そうすれば、相手を赦せるように聖霊が助けてくださる。

2 マイル行く

ジムとマリアンは、ふたりの結婚生活にどちらがより貢献しているか比較することに時間を費やしていました。ふたりは、円満な結婚生活のためには責任をふたりで均等に果たしていくことが不可欠だと思い込んでいたのです。そして互いに相手はずるいと思っていました。ふたりとも相手の貢献度が低すぎると感じ、いつも腹を立てていま

した。

主は昔、そのような問題の解決法を教えてくださいました。

「あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。

もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。

求める者には与え、借りようとする者を断るな。」(マタイ5:40-42)

ジムとマリアンが互いにどれほど相手からもらえるかから、どれほど相手に与えられるかということに焦点を変えた時、ふたりの結婚生活はよい方向に向かっていきました。モルモンは「愛はキリストの純粋な愛であって」「自分の利益を求め[ない]」と教えています。(モロナイ7:45, 47参照) 山上の垂訓には、この教えを効果的に実践する原則が次のように記されています。「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である。」(マタイ7:12)

この原則を実践するうえで、ジムとマリアンは、まず相手がほんとうに望んでいることを互いに知る必要がありました。マリアンはロマンチストで、夫から心のこもった短いメモや、ときには花を贈られるのを好み、夫からの「愛してるよ」という言葉を頻繁に聞きたがっていました。反対にジムは、「愛している」と伝える最良の方法は、家で故障した物を修理したり、庭の手入れをしたり、家族に経済的な保証を与えたりすることだと思い込んでいたのです。どちらの考えにも優劣はあり



ません。ふたりは互いの「愛の言語」が異なることにひとたび気づくと、相手の言語を語りだしました。その結果、ふたりは相手の結婚生活への貢献度に満足し、公平だと感じ始めたのでした。

公平な結婚生活のための鍵

1. 相手に与えることに重点を置く。
2. 自分が相手にどれだけ与えたかや、相手からどれだけ与えられたかにこだわらない。
3. 相手の必要に対し敏感になる。往々として自分の必要とする事柄は伴侶のそれとは異なることを心に留める。
4. お互いの「愛の言語」を語れるようになる。

「裁くな」

フレッドとジーンはある電機器具を買い替える計画を立て、何度も一緒に出かけてはさまざまな機種を比べていました。そのうち、やっとふたりとも気に入った機種を見つけたのですが、値段が高かったので買うのをためらっていました。翌日、ジーンを喜ばせようと思ったフレッドは、ひとりで店に出かけて行ってその気に入った機種を買い、ジーンが外出している間に配達してもらおう手配をしました。帰宅してその品物を見たジーンは狼狽しました。そして、フレッドが自分の意見を聞かずに最終的な決断をしたことを思いやり欠けると非難したのです。その非

山上の垂訓には、結婚生活を豊かなものとするうえで役立つ福音の原則がたくさん含まれている。赦し、奉仕、忍耐、聞く耳を持つこと、謙遜さ、愛などもその一例である。

難がきっかけで、ふたりの会話は口論にまで発展してしまいました。

結婚生活においては、しばしば相手に対する裁きが問題の原因になります。フレッドとジーンの場合のように、人は間違った憶測に基づいて裁いてしまいがちです。そんな誤った憶測や非難が怒りや反感を生むのです。

救い主は次のように警告しておられます。「人をさばくな。自分がさばかれないためである。

あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ……るであろう。……

なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。」(マタイ7:1-3)

夫や妻を厳しく裁くのは、たいていその人自身の生活に潜む問題の現われです。裁く代わりに「伴侶のこの行動あるいはこの態度が気に入らないのはなぜなのか」と、自問自答してみることが大切です。それによって、私たちは自分の目から「梁を取りのける」(マタイ7:5)ことができ、相手の欠点あまり目につかなくなるはずで

裁きを避ける鍵

1. コミュニケーションの道を残す。定期的に話し合う夫婦には、深刻な誤解が生じにくい。

2. 夫や妻に対して非現実的な期待をしない。

3. 疑わしい点は相手に有利に解釈してあげる。

4. 人にはそれぞれ異なる長所や短所があることを覚えておく。人は皆成長するペースが異なる。

5. 相手に変わってほしいと考える前に、自分が変わる部分を見いだす。

自制

ジョンとキャシーも自分たちの結婚生活に関してカウンセラーの助けを求めました。「ジョンはかんしゃくを抑えられないんです」とキャシーは切りだしました。「いつも怒ってばかりですし、ほとんどの場合、私には何で怒っているのかもわからないんです。」

話が進むにつれて、ジョンのいらだちは目に見えて高まっていきました。そして突然立ち上がると、キャシーを怒鳴りつけたのです。「こんな話はもうたくさんだ。カウンセリングがいるのはほくじゃなくて君だよ。」そう叫ぶなり、青ざめて震えているキャシーを残し、部屋を飛び出して行ったのでした。

感情が激しているときに、みたまを感じることは不可能です。救い主はニーフアの民に「争いを好む心ある者はわれに属く者にあらずして悪魔に属くものなり」(III ニーフアイ 11:29) と教えられました。家庭の中で怒りを抑えないでいることは、悪魔に家族を引き裂く環境を提供するのと同じなのです。怒りは利己的で、私たち自身の内にある最も悪しき感情へと発展

します。

山上の垂訓の中でも、救い主は怒りについて次のように注意を喚起しておられます。「兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。」(マタイ 5:22)

この聖句で、主が悪口をいさめておられることに注目してください。家族の中で、しばしばけんかの相手に対してけなしたり傷つけるような言葉を浴びせたりすることがないでしょうか。

怒りの代わりに必要なのは自制です。だからといって、無礼な行ないに対して不快感を伝えたり、正当な反論をしたりすべきでないということではありません。しかしそんなとき、無礼なのは人ではなく、その人の行動であることを忘れないでください。主は私たちに「柔和と温情と偽らざる愛」を実践するよう勧告しておられます。

「聖霊に感動しては機に臨みて〔時を置かず〕激しく〔はっきりと〕人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す」(教義と聖約 121:41, 43) のです。

この場合の鍵は自制と愛です。このふたつの特徴は、時間をかけて忍耐強く育てなければなりません。

怒りを克服する鍵

1. 怒りを感じたとき、「怒りを表わしたらだれの得になるだろうか」と自問してみる。もし批判が相手の益にならないなら、口に出さない。

2. 相手を責めることが必要ならば、時を置かずにはっきりと行ないを正し、その後、相手に対してより一層の愛を示す。

3. 悪口を言わない。特に怒りに任せて悪口を言ってはならない。

4. 生活のほかの面でも自制心を養う努力をする。

5. 生活の中に聖霊を求める。主のみたまと怒りを同時に感じることは不可能だから。

山上の垂訓を生かす

山上の垂訓の中には、このほかにも結婚生活の助けになる福音の原則があります。奉仕、忍耐、聞く耳を持つこと、謙遜、そして愛などです。このような資質は、結婚生活で自然にはぐくまれるものではありません。夫婦が一致し努力してこそ、夫婦のきずなは強められるのです。

聖典は夫婦が「一体となる」(創世 2:24) ことを教えています。一体になるとは、夫と妻がそれぞれ個人の人格を保ちながら、ふたりの生活と思いをひとつにしていくことを指します。このような夫婦の一致を実現し、相手を助けるために「利己心」を克服しようとするとき、何よりも役立つのが聖霊の賜です。夫婦の一致が進むにつれて、結婚生活はより一層すばらしいものになり、主が山上の垂訓で示された「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マタイ 5:48) という理想に近づくことができるのです。□

天使と ともに

ララ・メーヨー・バンガター

今度は私が街行く人を止めて、教会について話す番でした。ドイツに来てまだ2日目の私は、人々に、そして宣教師の召し自体に恐れを感じていました。

私は肯定的な反応を示してくれそうな人を切に探し求めて通りを歩きました。これからの18カ月間、一体どうやって、この召しを果たしていったらよいのでしょうか。

自分がどれほど恐れているのかを、同僚に知られたくありませんでした。そこで、意を決して40代前半の女性の所に向かって歩いて行きました。しかし、あらかじめ考えていた質問をするどころか、私はきびすを返して彼女から逃げ去ってしまいました。拒まれるのではという恐怖をどうしても抑え切れず、逃げ出さずにはいられなかったのです。

やっとのことで気を取り直すと、今度は決まりの悪い思いでいっぱいになりました。まさに、穴があったら入りたい心境でした。恐怖心があらわとなり、それがよい宣教師になることを阻んでいたのです。

悲しいことに、時がたってもこの弱さを一向に克服できませんでした。私

は幸福で、勇敢で、成功する宣教師には決してなれないのではないかという不安を感じ始めました。この弱点の克服は、個人の祈りの中で、私が何よりも力を込めて願う求める事柄となりました。伝道に出て2週間ほどは、何の助けも得られないかのようでした。しかし、ある肌寒い春の朝のことです。同僚は朝食の支度をしていて、私は床に腰を下ろし、宣教師の業に関するいくつかの聖句を引いて、声に出して読んでいました。

「教義と聖約第84章88節、誰^{たれ}にても汝らを受け入るる者には、われもまたそこにあらん。」聖句を読む私の声は詰まってしまいました。宣教師として、自分は神の助けを頂いていることを悟って感動を覚えたのです。

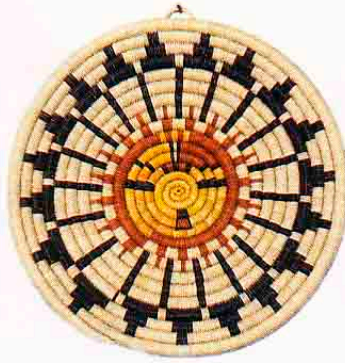
もう一度88節を読み返しました。「誰^{だれ}にても汝らを受け入るる者には、われもまたそこにあらん。そは、われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右^{みぎ}に在り、また左^{ひだり}に在らん。わが『みたま』は汝らの心^{こころ}の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」

人々に福音を教えることを恐れる理由などどこにあるのでしょうか。天父が私の右に、また左におられ、さらに天使が私を囲んで強めてくれていたのです。あの朝以来、恐怖の念に襲われるたびに、天使たちが求道者や同僚、そして私を取り囲んでいるさまを想像しました。そのような助けを受けているのに、私の伝道がうまくいかないはずはありません。□



南西部

アメリカ先住民の血を引く
末日聖徒の芸術



「タワ・クチナ」。うず巻き状の額。作者不明。このホピ族の額は、ユッカの葉で織ったもので、太陽を表わしています。額は、ホピ族の伝統で、結婚式の贈り物として配られます。



上——「雨と雹」。板に描かれた砂絵。1978年、クリスチン・アレン作。昔、砂絵は宗教的な儀式で用いるために作られました。右——「婚礼用のふた口のつぼ」。陶器。1983年、ヘレン・ナハ作。このつぼには飲み口がふたつありますが、ひとつは花嫁用、もうひとつは花婿用で、ふたりがともに分かち合い、ひとつとなって新たな人生を始めることを象徴しています。

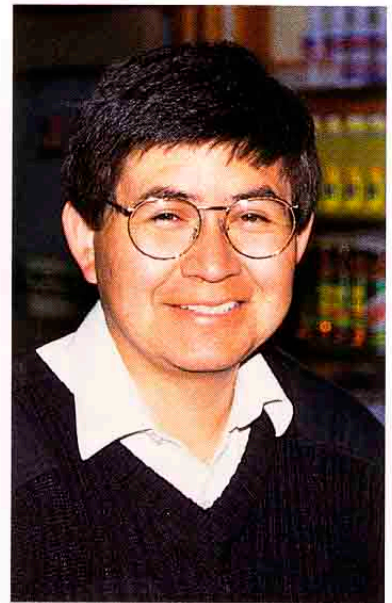
神聖なつながり

アメリカ南西部に住むナバホ族とホピ族は、祖先から豊かな芸術遺産を受け継いでいます。アメリカ先住民の血を引く末日聖徒の芸術家が作った作品には、彼らの生活へのイエス・キリストの福音の影響が数多く見られます。ニューメキシコ州北部とアリゾナ州に住むナバホ族は、先祖との神聖なつながりを、「ホジョ」という言葉で呼んでいます。「ホジョ」とは「徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきこと」と考えられるすべてを指します。(信仰箇条第13条参照)「ホジョ」とは神、自然、そして同胞と調和した生活のことをも意味します。ナバホ族の芸術家であるハリソン・ピゲイはこう語っています。「末日聖徒として、この『ホ

ジョ』を満喫できる最善の場所は神殿だと思います。」

アリゾナ州北東部に住むホピ族は、自分たちの部族名そのものが「創造主を礼拝する者」という意味を持っている、と確信しています。「私たちは、聖別された土地に住んでいます」とあるホピ族の芸術家は語っています。「主が、この地を私たちに託されたのです。そして、いつの日か、主に対して、この地で私たちが何をしたか報告をしなければなりません。私たちはそう信じています。」

ナバホ族やホピ族の末日聖徒である芸術家の作品を、いくつか紹介しましょう。ここに代表される芸術家は、それぞれの地域で、教会の霊的な指導者として奉仕の生活を送っています。



「芸術家は、いろいろな芸術的工夫を加えることによって、生命のない物体から生命を持つ作品を創造することができます。作品が、写実的なものであれ、抽象的なものであれ、二次元の作品であれ、三次元の作品であれ、生きたものとなるのです。

もし、私が『末日聖徒の芸術家に何かアドバイスを』と言われたら、まず精いっぱいイエス・キリストの福音に従った生活をする事です、と伝えるでしょう。私たち芸術家は、自分自身ではなく、神に栄光を帰するために作品を作るべきです。自分の作品が認められたときも、自分に才能を授けてくださった方が天父であることを忘れてはなりません。」

ナバホ族の画家、ウィリアム・ハッチ。

INFORMATION AND PHOTOGRAPHS FOR THIS ARTICLE COURTESY OF THE MUSEUM OF CHURCH HISTORY AND ART. EXCEPT AS NOTED, ALL PHOTOGRAPHS ARE BY RONALD READ



「リーハイ
が受けた生命の
木の示現」。陶器
(輪積み)。1994年、
タミー・ガルシア作。
この芸術家の作るつぼは、
ひも状に伸ばした粘土を輪
にして、何段も重ね、表面を滑
らかに整形した後で、模様を刻み
込んであります。出来上がった作品
は石で磨きます。「リーハイの示現は、人
生そのものと私たちの下す決断を象徴して
います。」こうガルシア姉妹は語っています。
「私たちは救い主に従うか、サタンに従うか
の選択をしなければならないのです。」

ホビ族の陶芸家は身近にある自然の素材を使います。粘土は、近くの丘から掘り出します。絵の具は、草を煮て作ります。また絵筆は、ユッカの葉から作ります。ひょうたんを加工して、粘土を掘る道具にします。燃料となる木がない環境では、つぼを焼き上げるために、羊の糞を用います。

インディアン芸術を作ることで、家族は、ナンベヨ家族のように何世代にもわたってひとつに結び合わされています。1895年、エドワード・カーチスの撮影した下の写真に写っているナンベヨは、優秀な陶芸家でした。今でもその子孫は、自分たちの作品に署名するとき、尊敬を込めて名前的一部分としてナンベヨの名を刻み込んでいます。



COURTESY SMITHSONIAN INSTITUTION

左下——「移住」。つぼ。1952年、ファニー・ナンベヨ・ポーラック作。この作品には、ホビ族がアリゾナ州北部に最後に移住した時のことが描かれています。ホビ族の伝説によると、先祖が葦の船で海を渡り、正確な場所は不明ですが、アリゾナ南部の温暖な地域に移住したということです。

右下——「トム・ポーラックの改宗」。トーマス・ポーラック作。トーマスはこの作品で、祖父の霊的な生涯とバプテスマを表現しています。祖父トムの口から出ている羽根は、ホビ族では祈りを象徴します。



「私は、この陶器で光栄の三種の段階を表現しました。(教義と聖約第76章参照) 同じような物語を描いたキブ族の伝統的な壁画や絵画を基にしました。私たちの先祖は、自分たちの伝承の一部として、すでに光栄の段階について知っていたのではないかと思います。

私は陶器を作るとき、自分の受け継いだ遺産を生かし、なおかつ、末日聖徒の原則も取り入れています。

私は、教会の会員としての成長と、陶器を磨いて完成させることは、よく似ていると思います。完全になるうと一生懸命努力しているとき、自分は磨かれている、と感ずることがあるのです。仕上げの段階になると、つぼは火で精錬されます。同じように、いつか全地球が火で清められる時が来るでしょう。」

陶芸家、レス・ナミンガ。



PHOTOGRAPH BY GILES H. FLORENCE, JR.

「南西部に住む先住民には、豊かな文化遺産があります。彼らの価値観や生活様式は、その芸術にも反映されるように、イエス・キリストの福音と密接に関係しています。このような神聖なつながりがあるからこそ、家族のきずなも深まり、豊かな生活を送ることができるのです。

南西部のインディアンの文化には、福音の教えとも相通じる数多くのすばらしい信仰があります。そのような信仰の中には、創造主に対する畏敬の念、家族愛、すでにこの世を去った人々と将来この世に生まれ来る人々にまで範囲を広げた家族のきずななどが含まれます。

聖霊を伴^{ほんりよ}として芸術を創造することが大切だと思います。芸術を通して人々が創造主に目を向けられるようにするためです。」

笛の奏者、制作者、ジョン・P・レイナー・ジュニア。



PHOTOGRAPH BY REED D. MILLER

上——アリゾナ州にあるナバホ民族の伝統の中心ウィンドウ・ロックの写真。右ページ——「栄光の三種の段階」。ネックレス。1991年、フィル・セカクワップテワ作。銀製の羽根に描かれた太陽、月、星は作者によると、死後の世界における栄光を象徴しています。真ん中にある羽根の軸の部分も、最高の位の王国を表わしています。低い位の王国を表わすのにるり色が、最も低い位の王国を表わすのにサング色が用いられています。

ジグザグ模様の敷物。1980年、ロゼ・ケイス作。真ん中の四角い部分は、「 Hogan 」、すなわち家庭を表わしています。ナバホ族の伝説にある4つの聖なる山から発する稲妻が家に当たっています。しかし稲妻は、砂漠の環境では雨の祝福を象徴するものなのです。

ガナド風ナバホの敷物。1991年、エルノラ・ティシヤット作。ナバホ族のホジョ（美と躍動的な力が、調和と自己抑制を保ちつつ混然一体となっている）に対する価値観がこの緻密に織られた敷物によく表わされています。作者はガナド風に倣って、灰色と黒の毛糸を基調として用い、縁には赤い毛糸を使い、左右対称のひし形模様を作り出しています。







PHOTOGRAPH BY MICHAEL McCONKIE

「初めに、地球は靈的に美しいものとして創造されました。星と空はひとつに合わされ、太陽が昼を照らし、月が夜を照らすように作られました。あらゆるものは、最初に美しいものとして創造されたのです。」

古き者、すなわち私の先祖は、ずっと以前に、美に包まれて生きられるようにと祈りました。私もその願いを受け継ぎました。つまり、美の中を歩み、幸福に歩み、人々への思いやりをもって歩むよう努めていきたいと願っているのです。さらに私は、努めて正しい生活をし、善良な思いを持つようになっています。そうすることで、ホジヨの境地を維持できるのです。」

ナバホ族の織り師、リタ・キース。



上——「インディアン居住区の宣教師」。手織りの敷物。1985年、リタ・キース作。末日聖徒イエス・キリスト教会最初の宣教師が、1854年、ブリガム・ヤングの指示により、アメリカ南西部に派遣されました。キース姉妹は、砂岩から成るアリゾナ州のモニュメント溪谷に到着した現代の宣教師を描きました。キース家族は、現在この地で暮らしています。

右ページ——「ウテ家族」。1994年、オーランド・ジョー作。ユタ産大理石の彫刻。「アメリカ・インディアンの社会は、どの時代にあっても家族中心でした。この彫刻で、男性は長く緩やかな衣服を着ています。これは指導者としての役割を意味します。男性の傍らには奥さんと子供がいます。私たちは、新たに誕生した子供たちを愛し大切に思っています。子供が地上に生まれてくることには、特別な意味があると考えます。」

下——「コーンポット」。陶器。1994年、アイリス・ユーベル・ナンペヨ作。ホビ・コーン族の一員として、アイリスは、母親ファニーと祖母ナンペヨから学んだ精巧な陶器の伝統を受け継ぎました。とうもろこしは、食糧であるばかりでなく、ホビ族にとって大切なシンボルでもあります。ホビ族は、とうもろこしがまっすぐ一直線に植えられるように、子供たちにも同じように人生をまっすぐに歩むよう教えています。



上——「救いの計画」。陶器。1994年、シャリー・ベン作。ベン姉妹は息子の死後、モルモン経を読んで、教会に再び活発に集うようになった。このつぼは、人に幸福を与える主の計画を表わしている。





汚れたものを 遠ざける

七十人名誉会員
H・パーク・ピーターソン

九世 誌や書物、CDやテープ、テレビや映画には、ソドムとゴモラに住んでいた人々の放らつな生活に匹敵するようなライフスタイルが描かれることが日増しに多くなっています。映画、音楽、印刷物などには、性や裸体、不敬な言葉が氾濫しています。

モロナイ書第10章30節にはこう記されています。「さて私はさらにあなたたちにすすめる。あなたたちはキリストの御許へ来て一切の善い賜物をつかめ。悪いたまものまたは汚れたものにかかわってはならない。」(下線付加)

最も悲劇的なことのひとつは、神の神権を持つ成人男性や青少年のあまりにも多くが、こうした種類のいわゆる娯楽と呼ばれるものを見たり聴いたりしていることです。最初、人々は何げなくこういったものに手をつけます。自分は霊的に強いので影響を受けることはないと考えます。しかし、このくすのようなものは、たくさんのきらびやかな偽りの衣のひとつで装ったポルノグラフィー以外の何ものでもありません。それは、あらゆる偽物作りの名人、サタンの最高傑作なのです。

私が悲劇と言うもうひとつの理由は、多くの成人男性や青少年たちが、自分がわなにかかっている、あるいはかかろうとしていると気づかないことです。残念ながら、私の話を聞いている人たちの中にも気づかないうちに中毒になっている人がいます。これらも娯楽の一形態であり、問題の多い今の世の中であって安らぎを与えてくれるものだと考えるのです。しかし事実は、霊性を失わせ、また必要なときに天から力を呼び求める能力を取り去ってしまうものでしかありません。





私たちは、そうした娯楽を求めたときの結果についてじゅうぶんに理解しておかなければなりません。両親の皆さんはお子さんに警告を与え、永遠の罰があることを教える必要があります。今晚ここに集われた兄弟たち、もし、そうした明らかに卑わいな事物を、たとえ軽度なものであれ、見たり、読んだり、聴いたりするならば、愛に満ちた神はきっと悲しまれます。また自分の霊にもひどい傷を負ってしまうのです。自分の家の居間であれどこであれ、そうした汚れたものを見たり聴いたりして、その結果苦しみを受けない人はだれもいません。その結果を間違いなく被ることになるのです。

私たちが記憶しなければならぬのは、私たちが正しい生活の報いとしてこの世で受けられるものは一部にすぎないということです。同様に、神の戒めを破ったことから来る悲しみも、この世で生活している間にすべてを味わうわけではありません。永遠は長い、長い道のりなのです。

皆さん、そうしたものから離れましょう。年齢制限のあるなしにかかわらず、いかがわしい行為や表現が含まれている映画やビデオ、出版物、音楽を遠ざけましょう。皆さんの居間からそうしたものを一掃する勇気を持ってください。そうしたテープや出版物をいちばんふさわしい場所であるごみ箱に捨てましょう。

教義と聖約にはこのことについての警告と約束があります。約束はこうです。「もし汝ら誠心誠意わが光栄を顕さんとすれば、汝らの全身光明に充た

されて汝らの中に暗黒なく、その光明に充ちたる体はすべての事を理解せん。」(教義と聖約88:67)

この聖句をきょうの話に当てはめてみましょう。私の理解では、たとえ軽度のものであっても今話したようなものを見たり聴いたりすると、私たちの心を暗黒が支配するために、内なる光は弱くなります。その結果、私たちは仕事や教会、学校、家族、そして個人の問題について、明晰な思考ができなくなります。問題解決のための光の源への経路が、さまざまな汚れた思いのために詰まってしまうからです。また、どのようなことであれ、直接に啓示を受ける権利が大幅に制限されます。勉強も仕事もうまくいきません。自分の力で処理せざるを得ず、その結果失敗も多くなり、気持ちも沈みます。心がすばらしい器であることを覚えておいてください。心は入ってきたものがごみであれ美しいものであれ、その中にとどめるのです。卑わいなものを見たり聴いたりすれば、それがどこから来たかにかかわりなく、私たちの心はそれを記録します。そして美しく清い思いを隅に押しつけてしまうのです。そうすると希望とキリストへの信仰は薄れ、次第に心の動揺や不満が付きまとうようになります。

兄弟や姉妹や両親と一緒にいても、以前ほど楽しくなくなります。こうして、心にも家庭にも平安と満足が見いだせなくなります。私たちは、後になってしなければよかったと思うようなことをしてしまうものなのです。さ

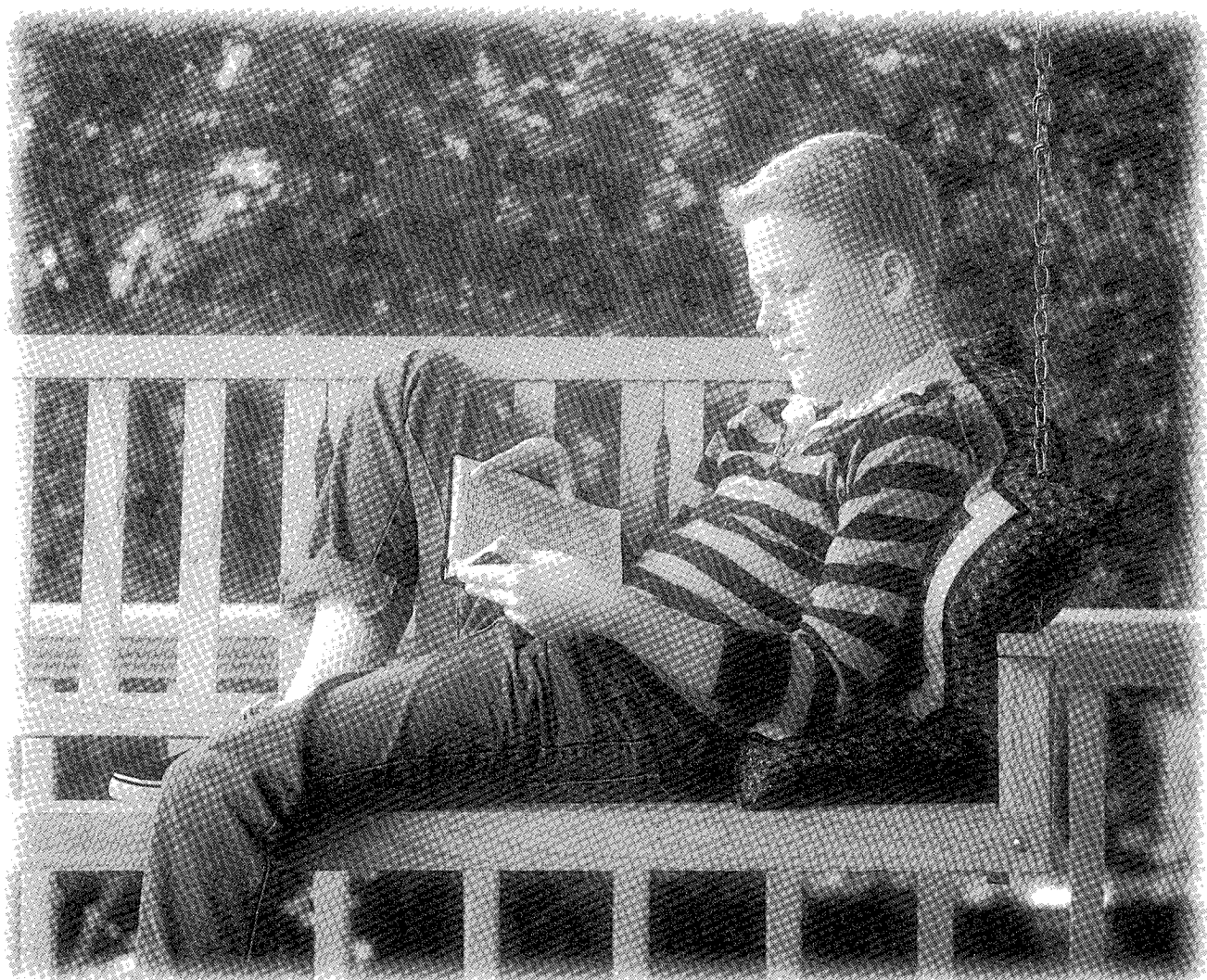
らに、悪意に満ちた争いの心が頭をもたげ、それが表面化するとキリストのみたまは離れていきます。

もう一度言います。このようなものを遠ざけましょう。離れましょう。焼いて、消して、捨ててしましましょう。年齢制限のある映画の多くがサタンの影響を受けて作られたものと言え、それは厳しすぎると言われるでしょう。しかし、私たちの標準は年齢制限の有無に左右されるものではないはず。繰り返します。本来の意図から考えれば、こうした映画や音楽やテープなどは、あらゆる暗黒の主の目的を満たすためのもの以外の何ものでもありません。

さて、不適切なものを読んだり見たりすることに関して問題を持っている人がいらっしゃるなら、希望と、反撃のための作戦をお授けしましょう。若い人の場合は両親が監督の所に行って助けを求めてください。また年齢に関係なく、主に助けを求めなければなりません。よくない行ないを改め、これまで話したような汚れた霊を清めるのは簡単なことではありませんし、時間もかかります。しかし、必ずできます。

不純物をすべて取り除いて霊を清める秘訣は、決してむずかしいものではありません。まず、毎日を心からの朝の祈りで始めて、夜の祈りで終わることです。私が知るかぎり、これは霊を清めるうえで最も大切な段階です。祈りの中で率直に、悪い習慣を捨て去る力を求めたり、罪を不快に思う気持ちを求めたりするとよいでしょう。

一方、すべての祈りがその日に、ま



毎日聖典を勉強することにより、霊的な強さがさらに増し加えられます。聖典の勉強は長くなくてかまいませんが、毎日すべきです。今晚から聖典を読み始め、たとえ数分でも1日も欠かさずそれを続けてください。聖典は、私たちが光の力で暗黒を圧倒することができるように助けてくれます。

た翌日にさえこたえられるわけではないことを心に留めておかなければなりません。長い時間がかかることがあります。やってみただけどあきらめたという人は、何度も何度もやってみてください。あきらめずにやれば、天の御父は皆さんの努力を見捨てられることはありません。

攻撃作戦の第2段階は、毎日聖典を勉強することにより、霊的な強さをさらに増し加えることです。聖典の勉強は長くなくてかまいませんが、毎日すべきです。私が皆さんの立場でしたら、今晚聖典を読んで、1日も欠かさずそ

れを続けるでしょう。たとえ数分でも読みます。聖典は、私たちが光の力で暗黒を圧倒することができるように助けてくれます。

私が勧める第3の段階は、必要なときに、告白を通して得られる祝福を受けることです。過ちを悔い改めないばかりに罪の意識にさいなまれている人があまりにも多くいます。告白は悔い改めの一部です。もし告白が必要な状態であれば、明日、日が暮れる前に監督に会いに行ってください。

私は救い主がこの業を導いておられることを証します。私の気持ちを、モ

ロナイ書第10章32節に記された偉大な予言者モロナイの別れの言葉に託したいと思います。

「キリストの御許^{みもと}に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全くなるならば、決して神の能力と権能^{ちから}とを否定することができない。」□



父の歩みに倣って

ジャネット・トーマス

寝ても覚めてもサッカーひと筋の16歳の青年がタヒチに住んでいます。1日に4試合することも珍しくありません。

タヒチでも屈指のチームに所属するこの青年は、タヒチで最も有名なサッカー選手と同じ家に住んでいます。彼はその人のことを「父さん」と呼んでいます。

この青年ナイア・ベネットにとって、父親の存在は大きな祝福であると同時に悩みの種でもあります。タヒチじゅうの人が彼の父親、エロール・ベネットの話を知っています。若いころ、エロールはタヒチで、あるいは南太平洋でナンバーワンの優れたサッカー選手でした。彼は教会について学び、バプテスマを受けたいと思いました。宣教師は彼に安息日は聖く過ごすべきであると教えました。ところが、サッカーの試合はすべて日曜日に行なわれています。彼は考えました。もしも自分と妻がバプテスマを受けるなら、おそらくサッカーをやめざるを得ないだろう。もし主に一生を捧げるつもりなら、主の教えに従って安息日を守り、霊的な事柄にいそしむべきである、と。

エロール・ベネットの下した決断は、たちどころに大

問題となりました。タヒチでサッカーといえば国民的スポーツです。最強チームの花形選手ともなれば、問題になるのも当然です。親戚じゅうから、仲間たちから、サッカー協会の役員たちから圧力がかかりました。しかしエロールはバプテスマを受けるとすぐ、「これからはもう日曜日にサッカーをしません」と、チームの仲間たちにきっぱりと話しました。するとスポーツ協会側は、エロールがなんとかサッカーを続けられるようにと改革を始めました。試合の開催予定を再検討して日曜日の試合を平日の夜に変更してくれたのです。日曜日が休みになって、ほかの選手たちも家族と過ごす時間ができたと喜びました。また、エロールのような花形選手がチームにいるおかげで、皆が一層すばらしいプレーをするようになりました。またエロールは、チーム一の得点王になりました。タヒチで最強のチームが日曜日に試合をしな

ナイアと父親は同じチームで活躍している。若いころ花形選手だったエロールは、現在では専らコーチとして若い選手たちの指導に当たっている。



TAHITI

CENTRAL SPORTS
TAHITI

AMPE

いことになったために、タヒチカップの決勝戦は土曜日に行なわれることとなりました。そればかりか太平洋大会の日程まで変更されたのです。ひとりの青年の信念が、一国のスポーツ上の慣習までも変えてしまったのです。

エロール・ベネットは現在タヒチ・ピラエステーキ部のステーキ部長であり、ナイアの父親です。この父親のおかげで、ナイアは日曜日にサッカーをしなくて済んでいます。父親が遭遇したようなむずかしい選択に迫られたことは今までありません。ナイアのチームにいるほかの11人の末日聖徒の仲間たちもそれは同じです。ナイアの妹たちも日曜日にバスケットボールの試合をすることはありません。タヒチの人間ならだれでも末日聖徒に向かって、日曜日にプレーするか、などと聞いたりはしません。ナイアは父親の決断をどのように受け止めているのでしょうか。ナイアは語ります。「父を誇りに思っています。最高の決断だったと思います。ポリネシアの人なら、だれでもこのことを知っていますよ。」

有名人の父親を持ってよかった点はこのようなことですが、逆に困るのはどのようなことでしょうか。それは父親のようにりっぱな人物となることを皆に期待されることです。ベネットステーキ部長は息子にどれほどの期待がかけられているかをよく知っています。「だれもが第2のエロール・ベネットを期待しているんですよ」と、ベネットステーキ部長は言います。「でも息子には周りのことは気にするなと言っています。自分らしくプレーすればいいんです。ほかの人のまねをする必要はないのですから。自分に合ったトレーニングをして、自分にしかできないサッカーをしてほしいですね。」

ベネットステーキ部長はナイアの所属する特別チーム

で今でも活躍しています。42歳になった彼はそろそろ引退しようと考えています。このごろ年には勝てないと感じているのです。それでも若い選手たちの可能性を引き出す手助けができることに生きがいを感じています。グラウンドに立つエロールの姿には、すべてを息子に引き継ぐといった気配はまだ感じられません。誇りを感じさせる声でちょっと意地悪そうに、選手としての息子の能力を分析します。「あの子ならやってくれるでしょう。父親を追い抜くだろうとは言いませんが、きっと大成するでしょう。」

ナイアはサッカーに関するかぎり、父親と同じ道を行ってきました。でも彼は少しだけ父親とは違うことをしようとしています。「ぼくは伝道に出たいんです」とナイアは言います。エロールは結婚してから教会に入ったので、若いころ伝道に出る機会がありませんでした。エロールにとって、息子の伝道を援助できることほどうれしい経験はないでしょう。

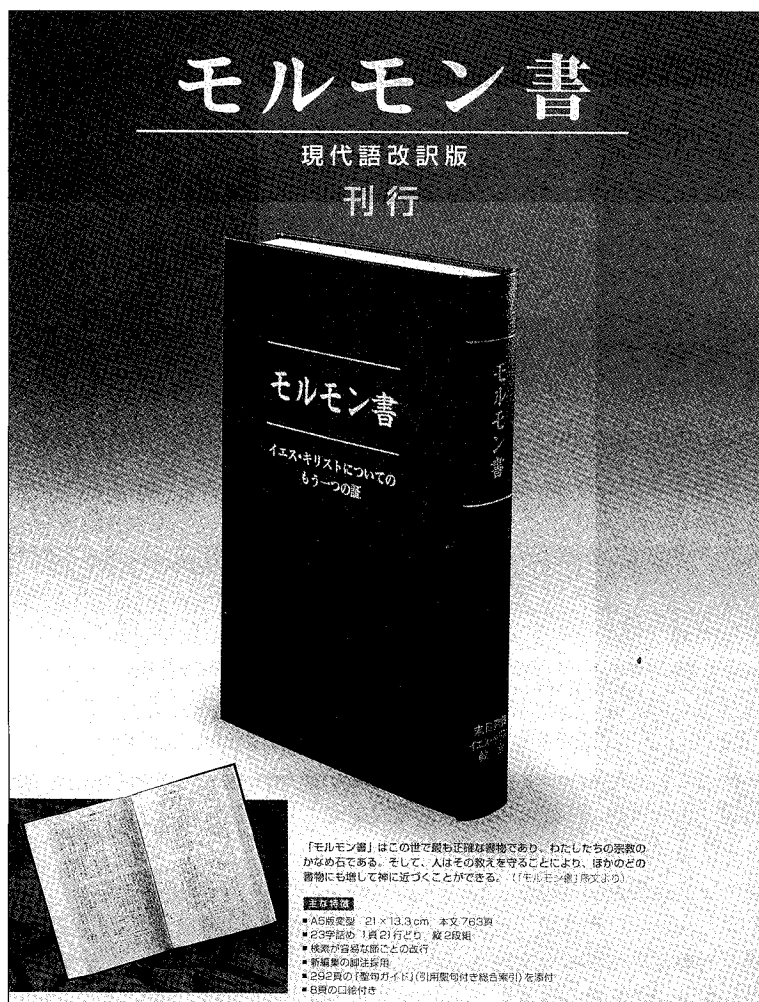
穏やかなひととき、父親と息子が中庭に腰掛けています。ベネットステーキ部長は息子に大好きな聖句、アルマ書第17章2節から3節を開けて見せます。モーサヤの息子たちが長い別離の後、友人であるアルマに再会した時のことを記した箇所です。皆が伝道に^{しもべ}励み、信仰強く、神の僕として仕えていたことを互いに知り、喜び合うのです。

ベネットステーキ部長が何を息子に望んでいるかは容易に想像できます。それがたとえサッカーであろうと、まったく別の分野であろうと、ナイアの将来に関して父親にとって何よりうれしいのは、いつまでも信仰深く神に仕える息子の姿を見ることなのです。□



左——ナイアはステーキ部長である父から聖典学習上のコーチも受けている。上——ベネット家でのおもな活動はやはりサッカーだが、ナイアの妹たちの好きなスポーツはバスケットボールである。

改訂新版『モルモン書』(日本語)の 発刊に当たって



大管長会と十二使徒定員会で構成される評議会の指示の下に、この度、末日聖徒イエス・キリスト教会は『モルモン書』(日本語)の改訂新版を発行しました。この改訂新版の刊行を発表する1995年7月7日付けの手紙の中で、大管長会は日本の教会員にこう勧めています。「会員の皆さんは自分自身の聖典を入手し、定期的に個人や家族で聖典を学ぶとき、また教会の集会に出席するとき、責任を果たすときにそれを用いるようにしてください。」

この改訂新版は、末日聖徒の信仰生活に様々な面で祝福をもたらすでしょう。先の手紙の中で、大管長会はさらに次のように述べています。会員の皆さんが「祈りの気持ちをもって聖典から学び教えるなら、証が育ち、知識が増し、家族や人々に対する愛が深まり、奉仕の能力が高められ、また誘惑に抵抗し、真理と義を擁護するうえで一層大きな力を得られるでしょう。」

これらの声明は、預言者ジョセフ・スミス自身が『モルモン書』について語った以下の見解を敷衍したものです。「『モルモン書』はこの世でも最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」(『モルモン書』序文)

改訂新版の特長

『モルモン書』を通して得られる祝福を読者が享受できるよう、この改訂新版には研究補助資料が掲載されています。聖文を理解し活用しやすくなっています。こうした特長は『モルモン書』の研究を容易にし、読者がイエス・キリストと福音についての証を得る助けになるでしょう。

序文

改訂新版の序文には、『モルモン書』を読み、この書物に含まれている教えを心の中で深く考えて、この書物が真実かどうか神に問うように、というすべての人にあてた勧めの言葉が記されています。さらに、信仰をもって問う人々は真実の書物であるという証を得るであろうというモロナイの約束も記されています(モロナイ10：4－

5)。読者は『モルモン書』が真実の書物であると知るとき、イエス・キリストが世の救い主であり、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、末日聖徒イエス・キリスト教会が地上に回復された主の王国であることも知るでしょう。

章の前書き

改訂新版の章の前書きには、各章の

ニーファイの統治と務め

リーハイと妻サラファ、および（長男から始めて）レーマン、レムエル、サム、ニーファイと呼ばれた四人の息子たちの話。リーハイが民に向かって彼らの罪悪について預言をし、民がそのリーハイの命を奪おうとしたので、主はリーハイにエルサレムの地を立ち去るように警告される。リーハイは、家族を連れて荒野に三日間の旅をする。ニーファイ、兄たちを伴い、ユダヤ人の記録を手に入れるためにエルサレムの地に戻る。一行が遭った苦しみ。ニーファイと兄たち、インマエルの娘たちを妻とする。一行は家族を連れて荒野に出発する。荒野で遭った苦しみと苦難。一行の旅路。一行、大海に来る。ニーファイの兄たち、ニーファイに反抗する。ニーファイ、兄たちを言い伏せて一隻の船を造る。その地をバウンティフルと名付ける。一行が大海を渡って約束の地に着くことなど。

ニーファイ第一書

第1章

これはすべて、ニーファイが配すところによる。言い換えれば、わたしニーファイがこの記録を書き記したのである。

わたしニーファイは善い両親から生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた。わたしはこれまでの人生で多くの苦難に遭ったが、生まれてこのかた主の厚い恵みを受け、まことに神の慈しみと恩恵を深く知った。そこで、生まれてからこれまでの間に行ってきたことを記録する。

2. 主ことにわたしは父の言葉で記録するが、それはユダヤ人が学んできたこととエジプト人の言葉から成っている。

ニーファイ第一書 第1章
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

改訂新版の特長として、書や章の前書き、ならびに脚注によって、『モルモン書』が活用しやすくなった点が挙げられる。脚注には、すべての標準聖典と「聖句ガイド」の参照箇所が記されている。

本文や教義の概要が記されています。また、各章で扱う出来事のおおよその年代も挙げられています。

脚注

脚注には、『聖書』の聖句も含めた相互参照聖句に加え、『モルモン書』巻末の「聖句ガイド」の参照箇所も記されています。さらに、ヘブライ語からの翻訳例、文法構造上難解な部分の解説、古語の説明も含まれています。脚注の数は非常に多いので、それら

を整理するために新しい分類法が考案されました。各節の最初の脚注番号は小さな上付き数字の1)とし、以下2), 3)というように、必要に応じて番号が付されています。この連番は、脚注のある節ごとに、1) から始まります。したがって、各ページ下欄の脚注は節番号と脚注番号で照合できます。例えば、第1節に3つの脚注がある場合、脚注欄には照合のため、1①, ②, ③という番号が付されます。同様に、第2節の脚注は2①, ②というように

項目リスト

使い方 「聖句ガイド」の項目リストは、福音に関する項目を五十音順に並べたものである。それぞれの項目について、まず短い解説があり、次いで最も重要と思われる参照聖句の箇所が挙げられている。そしてそれぞれの聖句には、その聖句の直接の引用または内容を短くまとめたものが付いている。参照聖句の掲載順は、(1)「旧約聖書」、(2)「新約聖書」、(3)「モルモン書」、(4)「教義と聖約」、(5)「高価な真珠」である。以下はその例である。なお、「聖書」の聖句については、特に指定がないかぎり、日本聖書協会発行「聖書」(1954, 55年改訳)を用いた。

項目は大きめの太字——聖文「教義と聖約」「高価な真珠」「言葉(神の)」「聖書」「正典」「年表」「モルモン書」参照

各項目の解説。——神の聖なる人々が聖霊に感じて書いたり、話したりした言葉。当教会が今日、公式の正典として認めている聖文は、『聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』の著者たちは、『旧約聖書』の各書を聖文と見なしていた(マタ22:29; ヨハ5:39; 2テモ3:15; 2ペテ1:20-21)。

項目によっては、このように再分類しているものもある。分類項目は字体を変えて表示してある。

〔 〕の中は関連聖句である。

時々その項目の中に見つけたい情報がないことがある。そのときは鍵括弧の項目を調べてみる。

時々「聖句ガイド」の中の別の項目に探している情報が含まれていることがある。鍵括弧の項目はそれを調べるのに役立つ。

括弧内の聖句は、項目の解説をさらに深く理解できるようにするためのものである。

聖文の価値：あなたはイスラエルのすべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない(申命31:10-13)。すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり(1ニフ19:23)。わたしは聖文に喜びを感じる(2ニフ4:15-16)。民は聖文を詳しく調べ、二度とこの邪悪な男の言葉に関き従わなかった(ヤコ7:23〔アル14:1〕)。

選択「選択の自由」「選ぶ」参照

多妻結婚「結婚—多妻結婚」参照

参照項目の中で再分類してあるものについては、一を用いて示してある。

改訂新版『モルモン書』の巻末に付された「聖句ガイド」には、語句の詳細な定義や関連項目の参照箇所をはじめ、様々な情報が掲載されている。

なります。

「聖句ガイド」

改訂新版『モルモン書』の際立った特徴の一つは、巻末の「聖句ガイド」と題する資料が付いていることです。この資料は大管長会と十二使徒定員会の指示の下で作成されました。末日聖徒が聖典を深く研究し、主イエス・キリストのさらに献身的な弟子となるよう促すためです。

「聖句ガイド」には、聖典から引用

した項目が五十音順に並べられています。各項目にはその言葉の詳しい定義や解説があり、それに続いて、通常は『聖書』を含む4つの標準聖典から重要な参照聖句が挙げられています。またほとんどの項目に対して、関連項目の相互参照箇所が挙げられています。このガイドは、LDS版聖典（英文）にある「項目別索引」と「聖書辞典」に手を加えて作成されたものです。

「アブラハムの聖約（契約）」のように、標準聖典にそのままの言葉が出てこない項目も幾つかあります。しかし、五十音順の項目リストには、それらの項目に対応する参照聖句が挙げられています。末日聖徒の神学上重要だからです。

「聖句ガイド」に収められた各種の表から貴重な情報が得られます。例えば、「年表」の項目は、アダムの時代からモロナイの時代までに起きた歴史的出来事の時間的推移を示したものです。この情報から、聖典中の各々の書が相互にどう関連しているかが分かります。「福音書」の項目には、『新約聖書』の福音書と『モルモン書』に記された出来事が列挙されています。読者が救い主の生涯の出来事について研究する際に役立つでしょう。

脚注の「聖句ガイド」の参照表示には、GS (Guide to the Scriptures の略) という記号が用いられ、次いで、「聖句ガイド」中の項目名が続きます。

翻訳の業に責任を担う 大管長会と十二使徒定員会

改訂新版『モルモン書』を読んでいて、何か所か、用いられている表現に少しぎこちなさや不自然さを感じる人がいるかもしれません。『モルモン書』の英語版にも同じように、英語を母語とする読者が読んでぎこちなく不自然に感じる言い回しがあります。実際、『モルモン書』の英文原本にこの種の言語上の問題があるということ自体、ジョセフ・スミスがこの書物の著者ではなく、ヘブライ人を先祖とする民が記した記録を、彼が実際に神の賜物と力によって翻訳したという証なのです。ジョセフ・スミスの翻訳は非常に逐語訳的で、原著者の用いた単語や

語句、文体にとっても忠実でした。そして主は、それが正しい翻訳であることを証していらっしゃいます。

そのため、主から聖典に関する諸事の管理を託された大管長会と十二使徒定員会は、英語版の聖典に最初に記された教義が、翻訳されるすべての版に必ず正確に保たれるようにするため、幾つかの方針と指針を定めました。これらの方針によれば、翻訳は、原著者の用いた慣用表現や文体だけでなく、単語や語句、文の構造に至るまで厳密に従うことになっています。

例えば、ヘブライ語の文では、時折、動詞と目的語の原形が同じ場合があります。「ひどいのろいをもってのろわれている」（ヤコブ3：3）などは、そのようなヘブライ語の特色がこの度の改訂新版に形をとどめている一例です。

同様の理由で、接続詞の言葉の反復使用がジェロム書第1章8節に次のように残されています。「……金や銀や貴重な品々、見事な作りの木工品や建物や機械、……などを豊かに持つようになった。」このような反復もまた、ヘブライ語の言葉遣いの特徴を反映しています。

「さて」や「まことに」という表現も、ヘブライ語では頻りに用いられています。ほかにも多くの実例が見受けられます。

預言者ジョセフ・スミスが古代の記録を英語に翻訳した際、これら普通に用いられない単語や語句をすべて残したことから、大管長会と十二使徒定員会は、預言者ジョセフ・スミスの記した原文から翻訳する場合も同様にすべきであると考えています。このようにして、改訂新版の翻訳は、主が元の言語で啓示された事柄の真の意味を非常に正確に伝えているのです。

改訂新版の翻訳や出版の過程に携わった翻訳者をはじめとするすべての人は、靈感の霊を受けてその務めを果たすように努めてきました。大管長会は次のように述べています。「『モルモン書』は神の賜物と力によって翻訳されました。……『モルモン書』を英語からほかの言語に翻訳する場合もその同じ力を受けなければなりません。」

改訂新版『モルモン書』（日本語）の翻訳と出版の全過程は、大管長会と十二使徒定員会で構成される評議会の指示の下で進められました。翻訳の最終的な校閲は、十二使徒定員会会長の指示の下に召された、教会の教義に精通したふさわしい会員たちによって行われました。いずれも日本語を共通語とする地で生活し、日本語の使用に秀でた人々です。

改訂新版『モルモン書』を使用することの大切さ

1830年に『モルモン書』（英語版）の初版が発行されて以来、英語版『モルモン書』は何度か改訂されてきました。まず、1879年に、オーソン・プラット長老が本文を現行の章と節に分け、脚注を付けました。続いて1920年、ジェームズ・E・タルメージ長老が本文を2段組みにし、章ごとに概要を付記しました。さらに脚注を追加し、年代の脚注を付け、索引を編纂し、本文を何か所か校訂しました。

1981年、スペンサー・W・キンボール大管長の指示を受けて、英語版『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』に新しい序文が付け加えられ、各章の前書きも更新され、新たな脚注が加えられ、索引が編纂し直されました。また、出版前の原稿と預言者ジョセフ・スミスが校訂した初期の版に合わせて、わずかな訂正が本文に加えられました。改訂新版『モルモン書』（日本語）は、この1981年の英語版を底本としています。

1981年の英語版の聖典が完成した後、ボイド・K・パッカー長老は、1982年10月の総大会で次のように述べました。

「年月を経るに従って、この聖典に触れる人々は、次々と主イエス・キリストを知って主のみこころに従う忠実なクリスチャンとなっていくことでしょう。」

古き世代の人々は、このような聖典には触れることなく育ってきました。しかし、今では次の世代の人々が成長しており、彼らは、歴史上かつてだれも目にし得なかった啓示に触れることができます。……彼らには、過去の人人には到底なし得なかった研究ができ

るのです。彼らはイエスがキリストであるという証を持ち、そのように宣言し、主を擁護する力を持つようになるでしょう。」(『聖典』『聖徒の道』1983年1月号, pp. 92-93)

また、1983年4月の総大会では、ハワード・W・ハンター長老がこう証しました。「『モルモン書』を読むならば] あなたの生活に多大な影響もたらされることでしょう。『モルモン

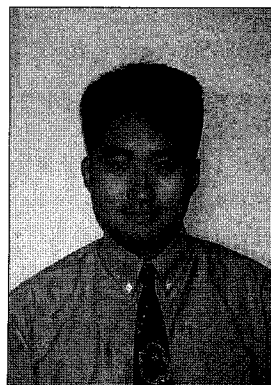
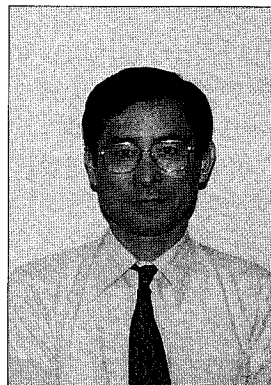
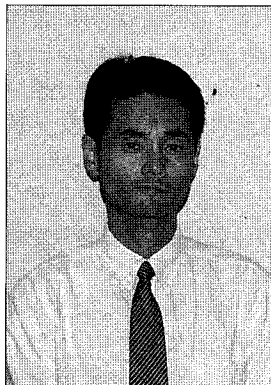
書』は、神が人間にどのように接せられたかを教えると同時に、福音の教えに従って生活したいという思いをさらに強めてくれるでしょう。またイエスについて力強い証を与えてくれます。」(『復活の証拠』『聖徒の道』1983年7月号, p.27)

新しい学習補助資料と靈感によって翻訳された日本語版の聖典は、教会員をはじめとする大勢の人々が聖文にさ

らに精通しようと努めるときにすばらしい助けになるでしょう。改訂新版の『モルモン書』がもたらす祝福を余すところなく享受するため、すべての会員が個人用の『モルモン書』を入手し、聖典を、特に『モルモン書』を自分で、また家族で毎日研究するようにお勧めします。□

再組織された秋田地方部長会

去る5月21日、仙台伝道部のリチャード・M・オースティン伝道部長管理の下に開催された秋田地方部大会で、1993年10月より地方部長の責任を果たしてきた佐藤祐輝兄弟が解任され、新たに乳井恒雄兄弟(写真中央)が召された。第一副地方部長には伊藤誠勇兄弟(写真左)が、第二副地方部長には阿部公能兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。



「神とすべての人を愛して」

——25年前にまかれた信仰の種が改宗への導き——

仙台伝道部秋田地方部長 乳井恒雄

5月21日の秋田地方部大会で、リチャード・M・オースティン伝道部長より地方部長の召しを受けました。「私にはとてもできない、お断わりしよう」と何度も迷いましたが、私の口をついて出たのは「お受けいたします」という言葉でした。今思い出しても恥ずかしいのですが、その一瞬に、何かわからない晴れがましさと、この職につける責任の重さを同時に味わ

ました。

バプテスマを受けてからまだ7年足らず、そして組織の中で活動することに疎い私には、地方部の責任がとても重いものであることはわかっていますが、今、秋田地方部がどのような状況にあり、地方部長としての自分に何が求められているかさえわかりませんでした。これまでの経験から、教会での召しは、召された人を成長させるためであると

の確信だけがありました。それが召しを受けるに当たって私が考えたすべてでした。

主からの召しを受けるとき、決まって頭に浮かぶのはモルモン経ニーファイ第一書第3章7節にある聖句です。そこには「主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それではなくては、主は何の命令も人に下したまわない」とあります。これまでの数少ない召しの責任を通して、この聖句が真実であることを幾度となく実感させられました。従順に従うことと、誠心誠意努力することの決心さえできているならば、必ず召しの責任は果たすことができ、その過程で多くの実りがもた

らされると知っています。

私自身の経験はわずかでも、私を補助して下さる副地方部長や書記のかたがたの経験は豊かです。彼らと協力し、一致して主のみこころを行なおうとするとき、必ず道は開けると確信しています。この召しの責任を通して、これまでよりもっと多くの人々に奉仕する機会が与えられたことを感謝しています。

私がこの教会を知ったのは今から25年前の、まだ学生のころでした。しかし、世俗の思いにとらわれていた私は、教会の教えに価値を認めながらも、バプテスマを受けて、生涯この教えに従って生きる決意をすることができませんでした。

それから18年余り、放蕩息子のように世俗の波に翻弄されながら、生きるべき道を模索してきました。多くの失意や離婚さえも経験し、人生の折り返し点に差しかかって、これまでの生き方でいいのかと自問したとき、今教会に戻らなければ自分を待ち構えているのは滅びだけであると強く自覚したのです。

その時初めて、25年前に教会の英会話教室で交わった宣教師たちが、私の心の奥深くにひとつの信仰の種を植えていってくれたことを悟りました。長い間眠り続けていたその種は、私が心からへりくだったときに初めて膨らみ始めました。そして「これはまことに善い種子、善い言葉に違いなく、私の心を大きく開き、私の理解力を増し、私はようやく好い味を感じる」(アルマ32:28) ようになりました。

バプテスマを受けたくて矢も盾もたまらなくなつて、夏休みを利用して学生時代に集った名古屋の教会を訪問しました。居合わせた宣教師に、今すぐバプテスマを施してほしいと頼んだのを昨日のこつのように思い出します。バプテスマを受けるには備えが必要であること、さらにすでに秋田にも支部が組織されていることを知らされました。秋田に戻ってすぐに秋田支部を訪問し、間もなくバプテスマを受けました。

「さて私の愛する兄弟たちよ、私は尋ねたい、あなたたちはこの真直ぐで

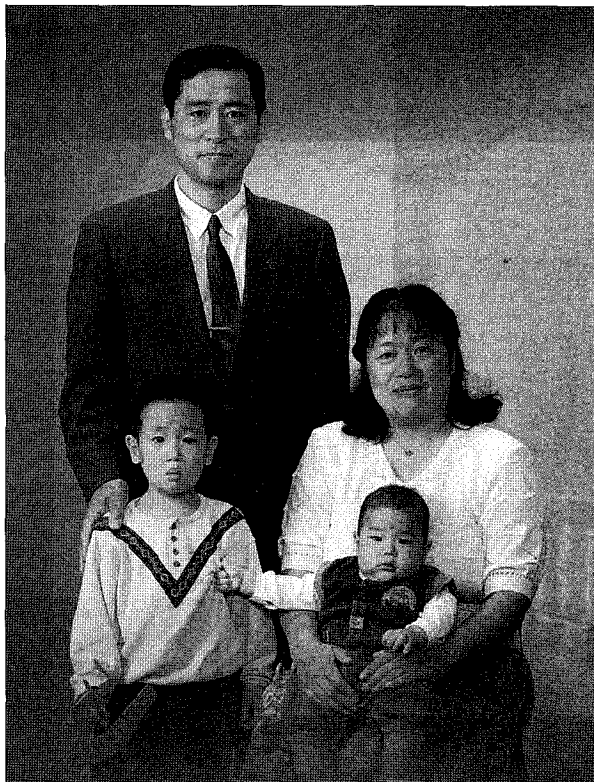
乳井ご家族

狭い道に入ったら、それで万事終りであるか。こらんそうではない。あなたたちがもしもキリストの言葉によってキリストを確く信仰し、人を救う大きな能力のあるキリストの功徳に全く頼らなかつたなら、あなたたちはここまで進んでくることさえできなかったのである。

それであるから、あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから、この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み、終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』、かくの如く天の御父が言いたもうた。」(IIニエファイ31:19-20)

バプテスマを受けた後、秋田支部の指導的な立場にある兄弟たちの生活態度は、私にとってよき規範であり、模範でした。妻と神殿で結ばれ、ふたりの息子たちとともに永遠の家族としてスタートしてからも、それら指導者たちの家庭はやはり私たち家族の規範であり、模範であり続けています。また、教会での活動を通して、多くの尊敬すべき指導者とそのご家族に会い、教えと導きを受けました。彼らに共通する人間的魅力と人格の高さは、モルモンの教えが真実であることを如実に物語っていました。

翻って自分がこの重い責任に召された今、自分と自分の家族に彼らのようなことができるかどうか不安になりますが、始めから完全である必要はないのだと自分に言い聞かせています。イエス・キリストでさえ、恵みに恵みを加えられて完全になられたのですから。



乳井恒雄地方部長の紹介

1947年秋田県北秋田郡扇田町(現在の比内町扇田地区)に生まれる。宇都宮大学大学院農学研究科(修士課程)修了。現在、秋田県立農業短期大学農村生活科講師(食品学を担当)。1990年に武田尚子姉妹と結婚し、ふたりの息子がいる。秋田地方部秋田支部に所属。これまで、秋田支部の副支部長、長老定員会会長、支部書記、インスティテュート教師、日曜学校会長などを歴任している。

(教義と聖約93:13参照) 私たちに求められているのは、互いに受け入れ、赦し合うこと、愛し合うこと、そして完全に向かつて励まし合い、努力することなのです。

主のみこころを行なおうと努力するならば、そして謙遜にへりくだり導きを祈り求めるならば、道は必ず示され、正しい道からそれることはないことを確信しています。(にゅうい・つねお)

全国バスケット・バレーボール選手権

3月25日土曜日、小雨の降る中、全国バスケット・バレーボール選手権大会がそれぞれの会場である駒沢オリンピック記念体育館と海老名運動公園体育館で開催されました。

この大会は、アジア北地域会長会の発案の下に、バスケット・バレーボール全国大会実行委員会が組織され、準備が進められました。スケジュールやそのほか解決しな

ければならないさまざまな問題点を抱えながらも全国40のステキ部・地方部の参加を得て、大会は無事に終了しました。

大会の主旨は教会の若人の活動を応援し、活発な伝道活動を推進することであり、教会の青少年と独身成人に、スポーツの公式戦を通して「スポーツの機会」「知り合い、友好関係を築く機会」を提供することが目標となっていました。以下は参加されたかたがたの感想です。

教会外の人々と一丸となった活動

「今回のバスケット・バレーボール全国選手権大会は、日本全国から参加できる教会のプログラムであり、しかもスポーツ愛好家の一般の方もチームに加わってともに競技できるという点で画期的なものだったと思います。

本来は『救い』という精神領域に関するプログラムを推進するのが教会の使命だと思いますが、人間にとってスポーツや文化的な活動は、もともと精神領域にも深くかかわりを持っているものだと思います。

教会の主催する、あるいは協賛する『教会の標準を守って参加でき、水準が高く、かつ教会員も教会員でない方も参加できるプログラム』が存在することは大変価値のあることだと思います。

もちろん初めての試みでしたから、運営面での反省点は多々あります。たとえば、一部の運営担当者に多くの負担がかかってしまったこと、開催地のステキ部の会員に時間や労力のみならず経済的にも多大な負担をかけてしまったことなどです。

しかしながら、雨の中、負傷者を背負って宿泊所まで送り届け、最後まで大会を見届けてくださった実行委員や、快く選手の宿泊、送迎の世話をしてくださったワード部の会員の姿などはとても印象的でした。」(全国選手権大会バスケットボール審判担当：横浜ステキ部川崎支部・小野和俊)

あまり活発でなかった会員が再び教会に

「3月24日から26日までの3日間のバスケット・バレーボール全国大会への旅は、沖縄の青少年の何人かにとっては飛行機、東京、雪、地下鉄などのすべてが初めてづくしとなったようです。ホテルでは、夜遅くまで親睦を図る機会があったようで、あまり活発でなかった会員も安息日の集會に参加するようになったというのを聞き、それだけでも大きな成果だったと思います。大会へ向けての練習で一緒に汗を流したことが、お互いの仲間意識を強めてくれたと思います。」(沖縄那覇ステキ部沖縄ワード部・伊波貴)

ふだん見られない姿に感動

「走る、跳ぶ、打つ。コートの中で懸命に戦う選手と、それを応援する人たちがひとつとなって競い合う姿を見てとても感動しました。ふだんの安息日には見られない兄弟姉妹たちの活動的な一面を見ることができ、力強く感じました。」(我孫子ステキ部つくばワード部・御園智子)

証を強め、培う機会に

「私はこの大会に参加できたことを深く感謝しています。大会のレベルに高をくくり『全国制覇』を目指した傲慢な心がみごとに打ち砕かれて惨敗してしまいました。しかし、教会員と求道者がひとつとなって練習に励んだこ

とで、今まで双方の間にあった壁のようなものが取り除かれていくのを感じました。教会のさまざまな行事に積極的に参加することで自分の証が認められ、証を培うことができるのを知り得たのは最も大きな収穫でした。」(東京北伝道部新潟地方部長岡支部・大河原吉明)

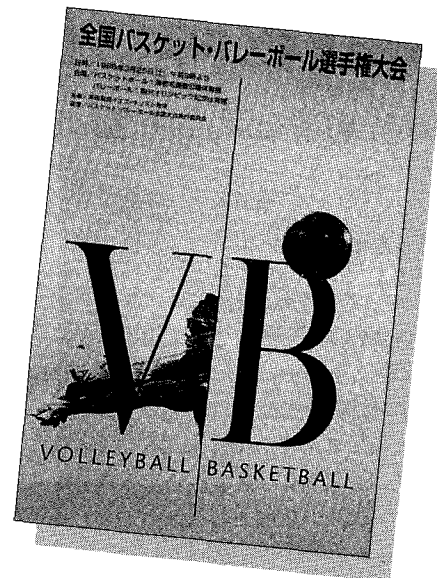
阪神大震災の中で

「私たち北六甲支部と三木支部合同の男子バレーボールチームは、1月16日(月)に大阪ブロック予選を勝ち抜きました。その翌日があの阪神大震災。両支部の会員の被害は少なかったものの、救援物資の仕分けや配達、炊き出しなどの奉仕をし、体育館も物資の保管場所となったためじゅうぶんな練習もできずに大会当日を迎えました。若い女性の手作りの鉢巻きをつけて名古屋西ステキ部と対戦し、大差で敗れてしまいましたが、全国の仲間からの大きな励ましを受けました。」(神戸ステキ部北六甲支部・湯浅勲)

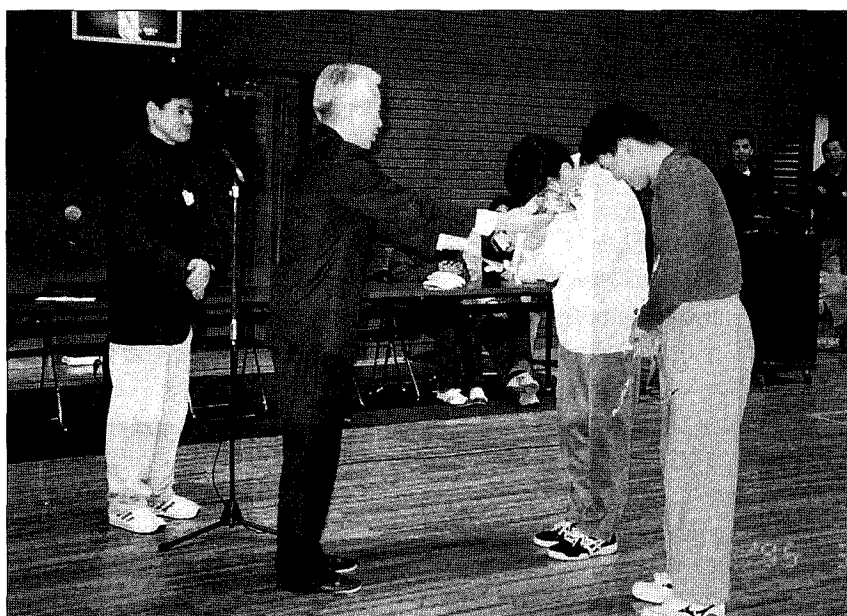
教会員でない友達に

「私たちは今回、全国バレーボール大会に出場しましたが、とても楽しい思いをさせていただきました。やはりスポーツはいいなと、しみじみ感じます。久しぶりに体を動かすことができましたし、また友達との友情も一層深まりました。特に教会員でない友達に少しでも教会について知ってもらえたことがよかったと思います。」(三重地方部四日市支部・中裕子)

大会開催される



上——当日のパンフレット。
 左——バレーボールの試合風景。
 下——バレーボール男子優勝チームの町田ステーキ部町田第二ワード部の代表にトロフィーを授与する全国選手権大会実行委員長で元地区代表のゲリー・松田兄弟。



今回の全国選手権大会を通して改宗者が生まれ、あまり活発でなかった教会員が再び教会に集うようになったり、宣教師から福音のレッスンを受けるようになった方が多数いらっしゃいます。

- 改宗者 9人
- 再び教会に集うようになった教会員 16人
- 宣教師からレッスンを受けるようになったかたがた 17人
- 選手権大会に出場した教会員ではないかたがた 168人

さまざまな問題点や反省点を抱えな

がらも、初めての全国規模の大会を行った意義はあったと思います。

この大会を提案し、見守ってくださった地域会長会、地区代表、ステーキ部長会、地方部長会、各地区の実行委員のかたがたに感謝しています。また、全国選手権大会実行委員として多大な時間を犠牲にし、難題に取り組みながら、ともに一致して働くことができた実行委員の兄弟姉妹たちに心から感謝しています。

なお、大会の優勝、準優勝チームは次のとおりです。

バレーボール

- 男子優勝——町田ステーキ部
町田第二ワード部
- 男子準優勝——岡山ステーキ部
福山支部
- 女子優勝——岡山ステーキ部
倉敷ワード部
- 女子準優勝——東京ステーキ部
吉祥寺ワード部と三鷹ワード部合同

バスケットボール

- 男子優勝——東京ステーキ部
吉祥寺ワード部
 - 男子準優勝——大阪堺ステーキ部
堺ワード部
 - 女子優勝——東京ステーキ部
吉祥寺ワード部
 - 女子準優勝——大阪堺ステーキ部
堺ワード部
- (レポーター：福永隆・全国大会実行委員、東京南ステーキ部高等評議員)

宣教師に出会って46年

——終戦後の混乱期の中でまかれた福音の種——

東京ステーキ部ひばりヶ丘ワード部 福田八重子

1945年の終戦当時、私は12歳。小学校に入るとすぐに「米国人は恐ろしい人」と教育されてきました。敗戦国となった日本は米国の支配下に置かれ、間もなく仙台にも米国の軍隊が上陸することとなりました。「米国軍隊が上陸するときは、一步も外に出てはいけません。顔をのぞかせてはいけません。」夏だというのに窓も戸も閉め切って、辺りは静まり返っていました。どうしてもアメリカの兵隊を見たいと思い、私が障子の穴からそっと外を見ると、ジープに乗った4人のアメリカ兵が外に銃を向けて怖い顔をして静かにゆっくり進んで行くところでした。私はその姿に恐ろしさを感じました。

それから何日が過ぎて、ふかした芋を母と駅前売り場に行くとき「チョコレート、チョコレート」と言って、ボロボロの洋服を着た日本人の子供たちがアメリカの兵隊に手を差し出している姿を目にしました。アメリカ兵は自分に配給されたチョコレートを日本の子供たちに配っていたのです。私は「アメリカ人て、やさしいんだ」とびっくりしました。

人生の大きな門出となった宣教師との出会い

1949年になると多少は生活にもゆとりができてきました。社交ダンスや英

語など、敵国のものとして禁じられていたことが、あちこちで流行していました。ある日、姉が社交ダンスを無料で教えてくれるのでついて来ないかと誘ってくれました。友達をひとり連れて行ってみると、2階で行なわれている英会話の方を姉に勧められ、言われたとおりにしました。この英会話で、私と友達は末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師ふたりと出会い、それが人生の大きな門出となったのです。

ひとりには赤木健二長老という日系2世のアメリカ人、もうひとりにはヒュ・リン・オールドハム長老というアメリカ人でした。進駐軍(米軍)の中には、長い戦争のため心がすさんでいる人もおおいのですが、このふたりは違っているととても強く感じました。誠実で清い人たちだと直感したのです。私が「英語は話せません」と英語で言うと、「今、英語ができたでしょう」と流暢な日本語が返ってきたのに驚きました。当時カトリック教会へ行き始めていた私は、この英会話をきっかけに末日聖徒イエス・キリスト教会へ通うことになったのです。

私は教義よりも宣教師の人柄に引かれ、彼らに尊敬の念を抱くようになっていました。物資のなかった私たちは、チョコレートやバナナ、チーズを宣教師から、教会員の軍人の家族からは洋

服、シューズ、靴、まくらなどを頂き大助かりでした。私は求道者でしたが、宣教師の後について街頭でちらしを配ったり、頂いたチョコレートを食べないで仙台の一番町で手を高くかざして「チョコレートはいりませんか」と売って、教会の資金にしたりしたことも忘れられません。

1950年に広瀬川でバプテスマ

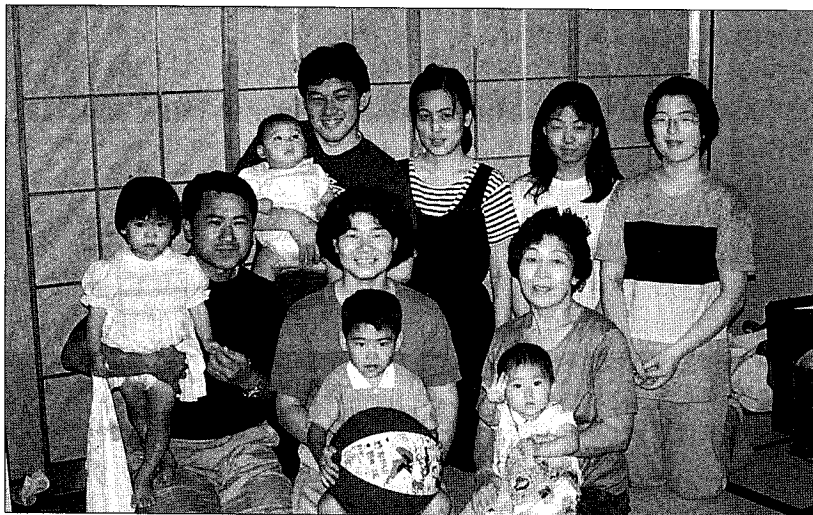
宣教師に出会った翌年の1950年11月12日、広瀬川で渡部正雄兄弟からバプテスマを受けました。英会話へ一緒に行った友達も、その日、ともにバプテスマを受けました。そして私は、デニス・アトキン長老から授手札を受けました。当時教会の書物としては明治時代にアルマ・O・テイラー長老が訳した緑色の表紙のモルモン経とジェームズ・E・タルメージ長老の書いた「信仰箇条の研究」のふたつだけで、賛美歌は5ミリくらいの厚さのものでした。テキストらしいものもなく、ガリ版で刷られた小冊子が配られるぐらいだったのです。

1957年6月、私は北部極東伝道部の専任宣教師として召され、当時出版されたばかりの現在のモルモン経を教会員からプレゼントされて伝道に出ました。岡町、福岡、広島、金沢で伝道して20カ月後、1959年2月に帰還し、その年の9月15日に福田濃兄弟と結婚しました。

2年後、夫は結核が再発し、生命の保証はないと言われながら左肺の3分の1を摘出する大手術を受け、1963年、無事退院しました。大病の後の職探しは大変でしたが、恵まれて望んでいた仕事には就くことができました。

盛岡の地に宣教師が送られて来た日

それから6カ月目、教会のない盛岡への転勤を命じられたのです。「異例の昇進」とはいうものの、教会のない所に住んだことのない私たちにはとても大きなチャレンジでした。祈った結果、先々を考えすぎるのはやめて仙台の教会へ通うことに決め、1966年の3月に盛岡へ引っ越すことにしました。



福田八重子姉妹ご家族

日の光栄の部屋で 号泣した夫

1970年10月、教会員のツアーでソルトレーク神殿へ行き、待ちに待った神殿結婚をしました。やっと永遠の結婚ができ、日の光栄の部屋で号泣する夫を見て私は驚きました。そんな夫の姿を見るのは初めてでした。

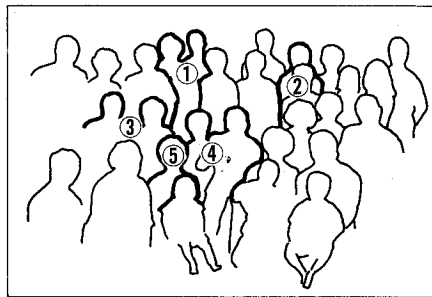
その時私は、テンプルスクウェアのタバナクルで日本の扶助協会と題して英語で5分間お話をしよう依頼され、「日本人で車を持っている人はまれで、子供を3人も4人も連れて満員電車に乗って家庭訪問に出かける」という話をしました。今では2台の車を持つ家庭も珍しくない時代です。日本はほんとうに豊かになりました。

1975年、日本武道館での東京神殿建設の発表は忘れられないものとなりました。4人の子供のうち、下のふたりは誓約の子でしたが、上のふたりとはまだ結び固めの儀式を受けていなかったのです。主人は東京神殿の献堂式の少し前に癌のために入院していましたが、「神殿で上のふたりの子供と結び固めを受けたい」と必死に願っていました。しかし、1981年2月17日、夫は次の世に旅立ってしまい、私にとって大きな大きな試練となりましたが、たくさんの方の愛によって支えられてきました。

「気長に御言葉を養い 育てるならば……」

1949年、赤木長老とオールドハム長老によって東北の地、仙台に初めてまかれた種は大きく実りました。1950年に主人と私、1952年に主人の弟の福田真、1975年に主人の母（72歳）、私たちの4人の子供、1990年に主人の末弟の長女里美がそれぞれバプテスマを受けました。この中で弟真（北部極東伝道部、後に仙台伝道部長となる）次いで私、私たちの長女真理（名古屋伝道部）、長男満（仙台伝道部）、めいの里美（名古屋伝道部）の5人が専任宣教師として働く機会にあずかりました。

赤木健二長老は後に神戸伝道部長として、また日本宣教師訓練センター所長（就任後間もなく、突然次の世に召



仙台ステーキ部泉ワード部の会員宅で行なわれた旧仙台支部を知る教会員の同窓会（1995年6月10日）。①リチャード・オースティン仙台伝道部長ご夫妻、②福田真（元仙台伝道部長）ご夫妻、③ヒュ・リン・オールドハム長老（仙台の初代宣教師）ご夫妻、④渡部正雄（初代の仙台支部長）ご夫妻、⑤福田八重子姉妹

された）として日本を再訪されました。ヒュ・リン・オールドハム長老は現在仙台伝道部で、私に按手礼をしてくださったデニス・アトキン長老は神戸伝道部で、それぞれ夫婦宣教師として働いておられます。そしてソルトレーク神殿で私たちの永遠の結び固めの証人をしてくださったリチャード・オースティン兄弟は、かつて仙台で専任宣教師として伝道され、現在、仙台伝道部長として働いておられます。

昨年夏、ポール・C・アンドラス伝道部長時代（北部極東伝道部。1955-1962）の宣教師の集いがユタ州ドレーパーで開催され、出席しました。2度目のソルトレーク訪問となりましたが、そこで36年ぶりに私の元同僚と再会し、とても感動しました。

50年前の終戦は、私にとって神様との出会いの初めでした。戦争に負けた後、福音に接した私は、自由意志の真髓を知りました。

おおぜいの人々との出会いは、いろ

いろな意味で私の助けとなり、祝福となりました。福音の糸にすがり教会に通い続けることにより、喜びが祝福として神様からプレゼントされるのです。一粒の種は、大きくふくらんでやがてたくさんの実となり私の心を豊かにしてくれました。

「あなたたちが心の中に神の御言葉の根がつくように勉めはげみ、厚い信仰を以て気長に御言葉を養い育てるならば、やがてその言葉の実をとって腹に満ちるまでそれを食い、もう飢えることもなく渴くこともないであろう。この言葉の実は最も貴重であってあらゆる甘いものよりも甘く、あらゆる白いものよりも白く、あらゆる清いものよりも清い。

私の兄弟たちよ、その時になってあなたたちは、自分のために木が実を結ぶのを待ちながら尽した信仰と勤勉と忍耐に対する報いを受けるであろう。」（アルマ32：42-43）（ふくだ・やえこ ワード部扶助協会教師）

7カ国語を使って神殿奉仕

——キリストの僕としての半生——

米国ユタ州オレム市在住
プロボ神殿宣教師 渡部正雄

私は1938年、ハルビン（中国東北地区）の日露協会学校を卒業後、ロシア語で外務省留学生試験に合格し、モスクワに行く予定でいました。しかし当時日ロ国交が不良であったため、北京に3年留学し、その後、任官して北京大使館に奉職しました。

戦時中、本省に戻り応召され航空隊に1年半いました。終戦により外務省に復帰したのですが、神道を信じ、世界を指導するであろう日本に信頼していた私は、信念と希望を失って暗黒をさまよう迷える羊のようでした。4年間まことに惨めな有り様で、体は生きていても霊的には死んでいたも同様の状態でした。

そうした中、今から46年前、ふたりの若い宣教師によって生けるキリストの愛を教えられ、よみがえったのです。それ以来、一直線にキリストに従って生きてきました。私ひとりではなく46年後にこの42人の家族が皆、若いふたりの宣教師によって救われたのです。

終戦後まだ若くして外務省を退職した私は10年近く教会の翻訳者として働

きました。また23年前、アジアで最初の祝福師に召され、日本だけでなくアジア各地からの会員に、また在日の米人会員に祝福させていただきました。（現在計1,623人）17年前からは神殿宣教師としてハワイで2年、東京で3年、台北^{タイペイ}で6年、現在もプロボ神殿ですでに5年働かせていただいております。

6年間の台湾での奉仕を終えた時、ロシアに伝道に行きたいと伝道管理部に願い出たのですが、その時は独身の宣教師しか出しておらず、あなたは少し年を取りすぎていると断られました。そこでロシアの聖徒が来る可能性がある東ドイツのフライベルク神殿に行こうとしたのですが、家内が反対したためこれも断念せざるを得ませんでした。

プロボ神殿では、日本語、中国語、広東語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、英語の7カ国語を使って奉仕させていただいております。毎朝5時半から、キリストの使者として全世界に出て行く宣教師訓練センターの2,500人の若人が入ってくると神殿は火のよ



渡部正雄ご夫妻とお孫さん。

うに燃えます。私は彼らを、特に日本に行く人には「私のような迷える羊が皆あなたがたを待っています。私ひとりが救われただけでなく、46年後には42人となったこの一大家族が、皆あなたがたキリストの大使によって救われたのです」と励ますと、涙を流して喜び、勇んで出で立ちます。

私は日本に帰ったとき、よくほうぼうのワード部・支部から話を頼まれます。これからの日本の若い末日聖徒は英語のほかにロシア語か中国語を勉強してロシアや中国大陸に伝道に出る準備をしなさいといつも励まします。スペンサー・W・キンボール大管長の世界伝道プランは日本から中国大陸に矢印が向けられ、28年前日本に来られた十二使徒のヒュー・B・ブラウン長老は大阪の大会で、日本人はロシアに伝道に行きなさいと声を大にして言われました。今その時が来たのです。

また恵まれて私はプリガム・ヤング大学（BYU）アジアワード部の祝福師として日、中、米人会員にそれぞれの言葉で祝福させていただいています。そして神殿、教会の奉仕のほか、アジ

渡部正雄ご夫妻（写真中央）の結婚55周年記念に集った親族。現在総勢42人。渡部正末兄弟は写真中段右端。



アワード部で中、米人会員や求道者に日本語を、日本人会員には中国語を奉仕で教授させていただいております。

私は教会に入ったため外務省を早く退職しました。留学時代の同僚は総領事大使となりましたが、すでに退官または死亡しています。一方私は81歳に

なりますが、まだ大学留学時代に覚えた語学で、今なおキリストの僕として神の王国の建設に奉仕させていただいています。心から天父と御子イエス・キリストと皆様に感謝しております。(わたべ・まさお BYU第1ステーク部アジアワード部祝福師)

拓者の子孫です。証会では、自分の先祖たちが開拓者として、多くの困難を乗り越えて、アメリカ大陸を横断して来たことを、涙ながらに語り、感謝をする人が必ずひとりやふたりはいます。

実際モルモン史は、多くの迫害を受けた開拓者たちの苦労を抜きにして語ることはできません。教会の映画などは、ほとんどが開拓者たちの苦労と迫害の悲劇を題材にしています。確かに宗教に限らず、国家をはじめ、どんな団体にも産みの苦しみがあり、その中心となった人々はそれぞれの国や団体のためにすべてを犠牲にし、命までも捧げるものです。

若干の差はありますが、日本のモルモン史の中にも同様の犠牲があったであろうと私は思っています。なぜなら、涙ながらに自分たちの先祖のことを語るユタの教会員たちの証を聞くたびに私も自分の父を思い出さずからです。

父は、日本の初期の改宗者としてこの46年間、教会のために全エネルギーを注ぎました。バスや電車では、常時持ち歩く教会のちらしを隣に座る人に渡し、伝道の機会を探しました。仙台の父が乗る通勤電車では、人々から「キリストさん」とまで呼ばれていたと言います。余談ですが、後日ブラジルで伝道した私の兄は、20年近くも前にこの「キリストさん」からちらしをもらい、ブラジルに移住後改宗したひとりの日本人の男性と出会っています。また、当時支部長を務めていた父の下で改宗した若人の中からは、多くの教会指導者が誕生しました。

教会のために仕事も変えました。ハワイ神殿訪問や、東京神殿建設のためには貯金をすべてはたきました。そして私の渡米後にはすぐ伝道の召しを頂き、父はハワイ、日本、そして台湾と3カ国で計5期の神殿宣教師を務めました。今なお健在で、現在プロボ神殿で週奉仕させていただいています。

父を重荷に感じ、 反発した10代のころ

しかし、若いころの私にはそんな父が重荷でしかなかったのです。10代の時はちらし配りをする父の姿が恥ずか

族長としての 父の信仰を振り返って

——総勢42人の子孫に残したもの——

米国ユタ州オレム市在住
渡部正末

昨年11月6日、私は8歳になった長男とともにバプテスマの水の中に立ちました。自分の子供にバプテスマを施すというのは、やはり感慨無量です。ここユタ州オレム市は、ブリガム・ヤング大学で有名なプロボ市(ソルトレークシティの南およそ80キロ)の隣にあります。北国ではありませんが、標高が高く、しかもロッキー山脈に囲まれた盆地気候のため、冬の訪れも早いのです。その日も平野部にこそなかったものの、山々は早、雪帽子をかぶり、空気は冷ややかでした。しかし、冷暖房設備の整った私たちのステークセンターでは、集ってくれた兄弟姉妹、親戚一同、だれも寒さを感じる者はいませんでした。もちろんバプテスマの水も、適温に調節されています。

数多くの宗教の中から 真理を探し求めて

その日をさかのぼること46年、1949年の同じ11月6日、仙台の広瀬川の冷たい水の中に、ひとりの男性がバプテスマのために立っていました。35歳のその人、すなわち私の父である渡部正雄兄弟は、長年探し求めていた真理を見つけ、バプテスマが必要であることを知りました。

多くの戦友を失った父にとり、敗戦

は落胆と失望以外の何ものでもなかったのです。神国日本の神話が崩れ、生きる支えを失った父は、何度も戦友たちの後を追おうとしたそうです。一人人生とは何なのか、死とは何なのか、父は悩み苦しみました。宗教を片っ端から研究するようになり、神道、仏教はもちろん、イスラム教も勉強しました。やがて、進駐軍とともにやって来たカトリック教会の神父や、プロテスタント教会の牧師たちと交際するようになり、キリスト教を学びました。しかしカトリック教会1年、プロテスタント教会1年と通ってみた父は、結局確信を得るまでには至らず、洗礼を受けることができませんでした。

そんなある日、ふたりの若いアメリカ人宣教師に紹介されました。はたして、初めこそこんな若僧に何がわかるかとばかにしていた父が、彼らの教えに驚嘆し、謙遜になり、心を開いていきました。特に、今まで疑問に思っていた、死者の救いに関する教義をはじめ、神殿、生ける予言者の存在には感動を覚え、確かにここに真理があるという証を得たのでした。

日本の教会初期の 開拓者としての父

ユタ州に現在住む私たち家族の友人は、土地がらそのほとんどが教会の開

「私の宣教師からの手紙」

——伝道地メキシコに召された息子の
成長を喜ぶ——

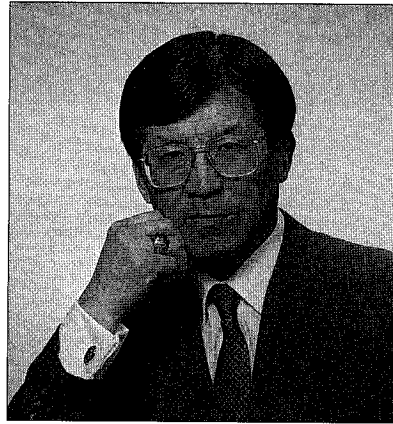
しく、父と一緒に外を出歩くことがないように心掛けました。教会に行くときも自分は自転車やオートバイで行き、父とは決して行きませんでした。長髪を戒める父に真っ向から反発しました。

クラブ活動に夢中だった高校時代は、日曜日に練習や試合があったため教会に行かないことも多く、しかられないためになるべく父と顔を合わせないように努力したものです。「おまえは忙しくて読む時間がないだろうから」と言って、朝食を取っている私に毎朝聖典を読んでくれたのも、そのころはありがたい迷惑でした。とにかくモルモン2世として渡部家に生まれたことに感謝できなかったのです。

その私が、今は自分の息子にちょくちょく聖書物語などを読んで聞かせているのですから不思議なものです。36歳になった今、ようやく父が理解できるようになったのでしょうか。35歳、すなわち父が真理を見つけた年に私は長男にバプテスマを施しました。しかも、その日11月6日は父のバプテスマ記念日でもありました。偶然ではありましたが、この奇妙な結びつきを祝って私は父に息子の^{あんしゅ}按手礼を依頼しました。

孫を祝福する父の 祈りに感動

まだバプテスマの水が乾き切っていない息子の頭上に父の手と、私の手、そのほか数人の親戚と友人の手が置かれました。父は一語一語言葉を確かめるように、そして力強く祝福を与えてくれました。それは私が聞いた数多くの父の祈りの中で最も感激した祈りでした。なぜなら、儀式の後私の息子を抱き締めてくれた父の目に、涙を見たからです。そして、その涙が、父によってその後導かれた母と、6人の子供、21人の孫と3人のひ孫、そして結婚している者たちのそれぞれの伴侶を含む、総勢42人へのとこしえの愛と、族長としての責任の証であると確信できたからです。(わたべ・ますすえ サンセットハイツ第5ワード部初等協会教師)



仙台伝道部秋田地方部秋田支部
M・マイケル・鈴木

大 学での仕事を終えて帰宅すると、長男のプライスからの手紙が待っていました。久しぶりに受け取る手紙に喜びと期待とを抱きながら開封しました。開封するまでのわずかな間に、長男の子供のころから宣教師としてメキシコ・エルモシオ伝道部に召されるまでの、一つ一つの成長ぶりが高速でパノラマを見るように思い出されました。

父として、また神権者として、子供の命名と祝福の儀式で息子に祝福を与えたこと。小・中学校でのさまざまな活動や高校での目覚ましい活躍。スペイン語が得意で友人とともにスペイン語で中古車販売店員をまねたコマercialビデオを作り、家庭の夕べで皆に見せて大笑いしたこと。高校では演劇で主役を演じ、一般市民や生徒たちに感動を与えたこと。それからユーモアある数々の出来事——たとえば父と母それぞれの誕生日にはお葬式とか病氣見舞いのカードを買って来て、わざわざその文面に線を引いて取り消し、「誕生日おめでとう」と書いてくれたことなど……。

教会では執事や教師として神権者の義務をよく果たしていたのに、高校の2、3年生ころから正直に生きたいという気持ちと反抗心とが微妙に交錯し

て自己発見に苦悩し、教会に出席することを一切拒否するようになった時期がありました。その時監督をしていた私との話し合いでは、少なくとも聖餐会だけは出席するというので納得しましたが、会が終わるとすぐに帰るといったような状態でした。

ブリガム・ヤング大学に入って間もなくの1991年春、「宣教師として奉仕する決心をした」という電話が彼からありました。自分の福音についての証が炎のように燃えていることを私たち両親に話してくれたのです。

伝道に召されてからの両親への便りといえば、時折電報で一生涯懸命やっているとのお知らせがあったり、たまに手紙が来るだけでした。彼の友人や姉(当時チリ・コンセプション伝道部に召されていた)から彼の伝道地でのすばらしい働きぶりを聞かされて初めて知ったような状態でした。そのようないろいろなことが目まぐるしく私の心の中に展開していきました。

開封してみると、手紙はタイプしてありました。そのタイプの活字は教会ですべて以前使われていたタイプライターの活字そのもので、何か二十数年も前に逆戻りしたような感じでした。手紙には1992年6月8日と日付があり、「DEAR DAD (親愛なるお父さんへ)」と始まっていました。息子から手紙が来るのは実にまれなことだったので一語一語をゆっくりかみしめながら読みました。以前の電報や手紙からも靈感を受けましたが、この手紙は特に霊的な証に満たされていて、より強い感動を覚えました。読むうちに目頭が熱くなり、その熱いものがほほの上を絶え間なく流れ落ちていきました。息子からのその手紙は彼の証であり、彼の現実の姿そのものだったのです。そのような彼に私は敬意とまた強い愛情を覚えました。

それと同時に、アブラハムの書にあ

る聖句を実際の経験として自分で確認したのです。「また汝なんじ（すなわち汝の神権）により、汝のすえ（すなわち汝の神権）による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ（すなわち文字通りのすえ、汝の体からだより出でたるすえ）によりて世界の眷族けんそくことごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝あたに与えらばなり。」（アブラハム2：11）私に与えられた神権が息子に与えられ、またそれによる祝福を感じるという、その偉大な祝福の中に永遠の真理を認識し

たのでした。

この手紙は常に私の聖典の中に挟んであります。ステーク部の責任を果たすとき、ほうほうを旅行するとき、また家にいるとき、いつでもその手紙を身近に持っています。そして時折読み返しては喜びと証を得て、力となっているのです。

まさしく「私の宣教師からの手紙」は聖霊により与えられた証であり、それは主の心であり、また言葉であり、永遠の救いに導く（教義と聖約68：3-4参照）ものなのです。

それは私自身の証でもあります。

親愛なるお父さんへ

「生活はとても質素です。
でも実に幸福な人たちののです」

ぼくは今「オープンよりも熱い所」と言われるエルモシオの伝道本部（メキシコ）から書いています。ぼくが伝道部長補佐として本部で働きだしてからもう8カ月になりました。その間にぼくは多くのことを学びました。でもぼくは転任することを願っています。ぼくの本心としてはやはり、宣教師として事務所ではなく外で働きたいのです。

ぼくは伝道部長、ときには同僚とともにソノラ州のほうほうを回っています。皆とほうほうを旅行し、ほかの宣教師たちに会うのは実に楽しいです。昨日もぼくは同僚とともに小さな村に行きました。その支部は小さく、長年閉鎖されていましたが、3、4カ月前に再開されたのです。

ぼくたちが見た教会は思っていたとおりの建物でした。小さな四角の小屋のような家が教会堂として使われていて、宣教師が運営面ですべてのことを行なっていました。教会の中にいた20人ほどの会員とともに、ぼくたちは霊的な聖餐せいさん式を始めました。床もない土の上にひざまずいて、スペイン語で聖餐を祝福しました。このつましい会員たちとの聖餐は、ぼく自身の心を魅了しました。聖霊に満たされて目頭が

熱くなるのをこらえながら祝福の祈りをしました。その時、ぼくの心に強く感じたのは「真の教会」という思いでした。

教会というものは建物ではない、ドレスとか洋服とかネクタイというものでもない、根本的なものは人々の信仰と希望と愛だ——ということです。ここでは人々が素直な心で福音を受け入れ、それを土台として生活しています。生活はとても質素です。でも実に幸福な人たちののです。ぼくは彼らの心の中に神の業を見ました。信仰と希望、愛、思いやりの心を、ぼくは彼らから証として学び得ました。それは当たり前のことですが、ぼくは摂氏43度というすごい蒸し暑さの中で汗をふきながら、小さな村の教会で土にひざまずいて、愛する人々とともに「真の教会」というものを心から体験したのです。

お父さん、日々与えられた物質的な豊かな恵みを感謝してください。伝道部で働いている人々は実によい人たちです。ぼくは山のようなたくさんの仕事に追われることもあります。だいたいじょうぶです。このようなことがなければ外に出て宣教師として働きたい、という気持ちにさいなまれてしまいます。

同僚はメキシコシティーから来た、とてもすばらしい宣教師です。お互い

にわかり合える同僚がいるというのは大切なことですね。ぼくたちは本部での仕事の合間に時間を作って、この町の貧しい地区でほかの仲間とともに伝道しています。それらの地区にはギャングだとか麻薬で苦しんでいる人々がたくさん住んでいます。ぼくたちはこの地区で伝道することを1カ月前に許可されました。それ以来、一生懸命に働いています。

以前は町でも裕福な地区で働きましたが、意外なことにとても多くのパブテスマがありました。最近ぼくはだいぶやせました。前の地区とは異なって、この地区の多くの人々は貧しいため、ぼくたちを食事に招待できないのです。別にぼくは気にしません。それよりも貧しい人々の間で働くときの方が幸福に思われるのです。それは福音が彼らの生活の中に溶け込んでいるからです。彼らの心の豊かさが目に見えているからだと思います。

夏が過ぎれば間もなく家に帰りますが、本当にあっという間に時間が過ぎてしまいそうです。もう4カ月しかありません。考えてみると、伝道に出るからぼくはこの世的な社会生活に接していません。生活環境もまったく違う異文化の中でさまざまな体験をしながら宣教師として過ごしてきた月日を思うと、家に帰るのが何か怖いような不安な気持ちになります。

これまで、はだしでシャワーを浴びることすらできませんでした。もちろん、お湯のシャワーではありません。土の中の寄生虫が足から体内に入るのを防ぐため、スリッパをはいたまま、バケツでくんできた水を浴びています。そのこと自体がぼくの現実を物語っていると思います。

では、お父さん！ お体を大切にしてください。また手紙を書いてください。最後にひとつお願いがあります。おいしいピザをぼくのために食べてください。——ブライス・A・鈴木長老より

*マイケル・鈴木兄弟は、ミネソタ州立大学秋田校の音楽教授として1994年9月に来日。今年8月末まで教鞭きょうべんを執り、その後帰国。ミネソタ州スファールステーク部マーシャル支部所属。

7月に召された専任宣教師

第190期生 12人



後列左から1-6, 前列左から7-12

〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 菅沼 仲盛	岡山M/松山D/松山W	神戸伝道部
2. 林 央人	静岡S/浜松W	札幌伝道部
3. 鈴木 義雄	町田S/町田第一W	沖縄伝道部
4. 武蔵野 悦正	横浜S/横浜第一W	札幌伝道部
5. 宮平 佳周	沖縄那覇S/首里W	神戸伝道部
6. 村田 徹也	神戸M/福知山D/豊岡B	札幌伝道部
7. 岡村 眞澄	名古屋M/三重D/鈴鹿B	札幌伝道部
8. 池田 西希	福岡M/熊本D/白川B	神戸伝道部
9. 杉崎 由実子	京都S/下鴨W	東京南伝道部
10. 杉山 さやか	町田S/厚木W	札幌伝道部
11. 栗原 芳子	名古屋西S/福徳W	沖縄伝道部
12. 三原 裕子	町田S/藤沢W	福岡伝道部

S:ステーキ部, M:伝道部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

海外に召された日本人宣教師

上から名前, 任地, 赴任日, 出身ユニット (S:ステーキ部, M:伝道部, D:地方部, W:ワード部, B:支部)



石坂由美
ハワイ・ホノルル
伝道部, 1995年9
月, 東京S/所沢
W



舘田こすえ
ネバダ州ラスベガ
ス伝道部, 1995年
6月, 仙台M/青
森D/弘前B



松野香絵
ハワイ・ホノルル
伝道部, 1995年7
月, 名古屋S/豊
橋W

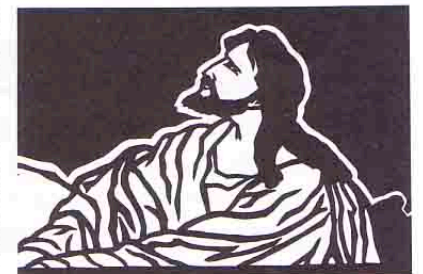


原田悦子
ソルトレーク・テ
ンプルスクウェア
訪問者センター伝
道部, 1995年7月,
大阪堺S/和歌山
W

役員の変動

1995年6月6日から1995年7月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動 (敬称略)

- 札幌ステーキ部白石ワード部
新監督: 土田成美
- 東京北ステーキ部浦和ワード部
新監督: 小宮泰夫
- 名古屋ステーキ部豊田支部
新支部長: 松本響一郎
- 広島ステーキ部廿日市ワード部
新監督: 桐林 潤





「聖徒の道」予約講読キャンペーン実施中!

1995年9月1日から10月31日まで(予約更新/新規予約)
年間予約2,400円 半年予約1,200円

定期購読の方法

*購読料の払い込みには、以下の3通りの方法があります。(事務処理を円滑に行なうために、下記のA, Bの方法によるユニットごとの一括注文にご協力ください)

- A. 年間購読料の銀行・郵便局からの口座自動引き落とし(手続きの方法は各ユニットの「聖徒の道」係にお尋ねください)
- B. ユニットの「聖徒の道」係への現金支払い
- C. 専用の振替払込通知表を利用した個人による郵便振替(本誌最終ページのとじ込み振替用紙をご利用ください)

*発送についてのお問い合わせ⇒資材管理部配送センター ☎044-811-0417
お支払いについてのお問い合わせ⇒管理本部経理課 ☎03-3440-2602(直)

●新刊の紹介●



LDS文庫, 続々刊行 (全12巻を予定)

「LDS文庫」は、末日聖徒イエス・キリスト教会日本語版機関誌「聖徒の道」の1970年代から1990年前後にかけての記事の中から、米国ユタ州ソルトレークシティで開催される年2回の教会総大会での、教会幹部の説教をテーマ別にまとめたものです。

(LDSは、末日聖徒“Latter-Day Saints”の略)

— 6月発売 —

- LDS文庫1 「救い主イエス・キリスト」
86351 300 A 6判 304頁 300円
- LDS文庫2 「互いに愛し合いなさい」
86352 300 A 6判 272頁 300円
- LDS文庫3 「家族のきずな」
86353 300 A 6判 288頁 300円

— 7月発売 —

- LDS文庫4 「全世界に福音を伝える」
86354 300 A 6判 292頁 300円
- LDS文庫5 「神に従う女性」
86355 300 A 6判 276頁 300円
- LDS文庫6 「神権を受ける者」
86356 300 A 6判 312頁 300円

— 8月発売 —

- LDS文庫7 「祈りによって天父に近づく」
86357 300 A 6判 236頁 250円
- LDS文庫8 「従順の実」
86358 300 A 6判 334頁 320円
- LDS文庫9 「み言葉の力」
86359 300 A 6判 248頁 250円

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただきます。また、掲載までに時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。

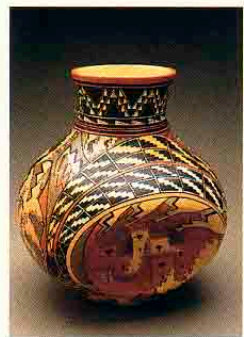
◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介していきますので、伝道の召しを受け取り次第、「聖徒の道」編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名(フリガナ)、伝道部名、召された月を明記)

◎あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 「聖徒の道」編集室
☎03(3440)2666 ファクシミリ03(3440)3275



「アリゾナ神殿」毛織りの敷物。1990年，リタ・キース作。

著名な織り手であり，改宗者であるキース姉妹と夫のハーリーは，1971年アリゾナ神殿で結び固めを受けた。キース姉妹は定期的に神殿に参入し，自分の部族の言葉，ナバホ語で神殿の儀式に携わっている。この敷物に織り込まれている，伝統的な手法で描かれた神殿の周囲のにじは，ナバホ族では昔から祝福の象徴とされてきた。アメリカ先住民の芸術家で，末日聖徒のそのほかの作品については，本文に紹介されている。



「神」 はアメリカインディアンに、絵を描き、宝石を作り、織物を作るなど、芸術によって自分を表現する優れた才能を授けられました。
——末日聖徒でナバホ族の芸術家、レイ・トレーシー。(本誌『南西部——アメリカ先住民の血を引く末日聖徒の芸術』p.34参照)

左上——「光栄の三種の段階」1994年，陶器。レス・ナミンガ作。

右上——「かぼちゃの花」1978年，ネックレス。ウェイン・セカクワツプテワ作。

右下——「古代人の声」1988年，陶器。ルーシー・ループ・マケルビー作。

左下——「ノアの箱舟」1990年，ユージン・ヌランジョー，イザベラ・ヌランジョー作。

